

再処理施設の制御室の安全対策について (再処理施設の有毒ガス影響評価について)

【概要】

- 廃止措置計画変更認可申請(令和 2 年 10 月 30 日)では、制御室の安全対策の一環として、制御室の居住性の観点から、外部火災を起因としたばい煙や有毒ガスへの対策となる環境測定用機器(酸素濃度計, 二酸化炭素濃度計, 有毒ガス検知器・有毒ガス警報装置)及び可搬型の換気設備(可搬型ブロワ, フィルタ, ダクト)を配備することを示した(別紙 6-1-10-1-3)。
- 有毒ガスの影響については、外部火災に起因するばい煙及び有毒ガスに対しては既に影響評価を行っていたが、それ以外の敷地内外に保管されている有毒化学物質の流出に起因する有毒ガスの影響については、今後、発生源の調査を実施した上で、評価及び対策検討を行うこととしていた。
- このことから、廃止措置計画変更認可申請(令和 2 年 10 月 30 日)で示した「再処理施設の有毒ガス影響評価について」(別紙 6-1-10-1-3-3)に基づき、評価及び対策の検討を実施した。
- 評価にあたっては、「有毒ガス防護に係る影響評価ガイド」に基づき、再処理施設の敷地内外において貯蔵施設に保管されている有毒ガスを発生させるおそれのある有毒化学物質(固定源)及び敷地内において輸送手段(タンクローリ等)の輸送容器に保管されている有毒ガスを発生させるおそれのある有毒化学物質(可動源)を調査した。特定した敷地内外の発生源について、貯蔵されている有毒化学物質の全量流出によって発生した有毒ガスが大気中に放出される事象を想定し、再処理施設の分離精製工場(MP)中央制御室及びガラス固化技術開発施設(TVF)制御室の運転員に及ぼす影響について評価した。評価の結果、再処理施設の制御室について有毒ガス対策を必要とする有毒ガスの発生源はないことを確認した。
- 予期せず発生する有毒ガスに関する対策として、酸素呼吸器の配備, 有毒ガスからの防護のための実施体制及び手順の整備等を行うこととした。

令和3年1月28日

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構

再処理施設の有毒ガス影響評価について

1. 概要

再処理施設の敷地内外において貯蔵施設に保管されている有毒ガスを発生させるおそれがある有毒化学物質（以下「固定源」という。）及び敷地内において輸送手段（タンクローリー等）の輸送容器に保管されている有毒ガスを発生させるおそれのある有毒化学物質（以下「可動源」という。）から有毒ガスが発生した場合に、これらの制御室の運転員に及ぼす影響について、廃止措置計画変更認可申請（令和2年10月30日）で示した別紙6-1-10-1-3-3「再処理施設の有毒ガス影響評価について」に基づき評価を行った。また、影響評価については「有毒ガス防護に係る影響評価ガイド」（以下「ガイド」という。）を参考に、評価対象とする貯蔵容器全てが損傷し、当該全ての容器に貯蔵されている有毒化学物質の全量流出を想定し実施した。

評価に当たって行う事項として、再処理施設敷地内の固定源及び可動源、再処理施設敷地外の固定源の調査を実施した。なお、固定源及び可動源の調査に併せて、再処理施設において将来使用する可能性がある化学物質についても検討した。

その結果、敷地内固定源として屋外薬品貯蔵所に貯蔵しているホルマリンが、敷地外固定源としてアンモニア、ガソリン及びメタノールが該当することを確認した。屋外薬品貯蔵所のホルマリンについては、再処理施設において今後使用する計画がなく、令和3年3月末を目途に廃棄することから、本評価の対象外とする。また、アンモニアについては、制御室入気口からの離隔距離が大きい（1.5 km以上）ため制御室の運転員に影響はない。ガソリン及びメタノールについては、アンモニアと比較し揮発量が小さく、離隔距離も大きいことから、アンモニアと同様に制御室の運転員への影響はない。

以上から、有毒ガス防護対策を必要とする有毒ガスの発生源はない。なお、予期せず発生する有毒ガスに関する対策として、ガイドに基づき酸素呼吸器等の保護具を配備することと共に、発生する有毒ガスからの防護のための手順及び実施体制を整備することとする。

2. 有毒ガス防護に係る妥当性確認の流れ

有毒ガス防護に係る評価は、ガイドに従い図-1 に示すフローのとおり実施する。

有毒ガスの発生事象としては、敷地内外の発生源について、貯蔵容器が損傷し、貯蔵されている有毒化学物質の全量流出によって発生した有毒ガスが大気中に放出される事象を想定する。

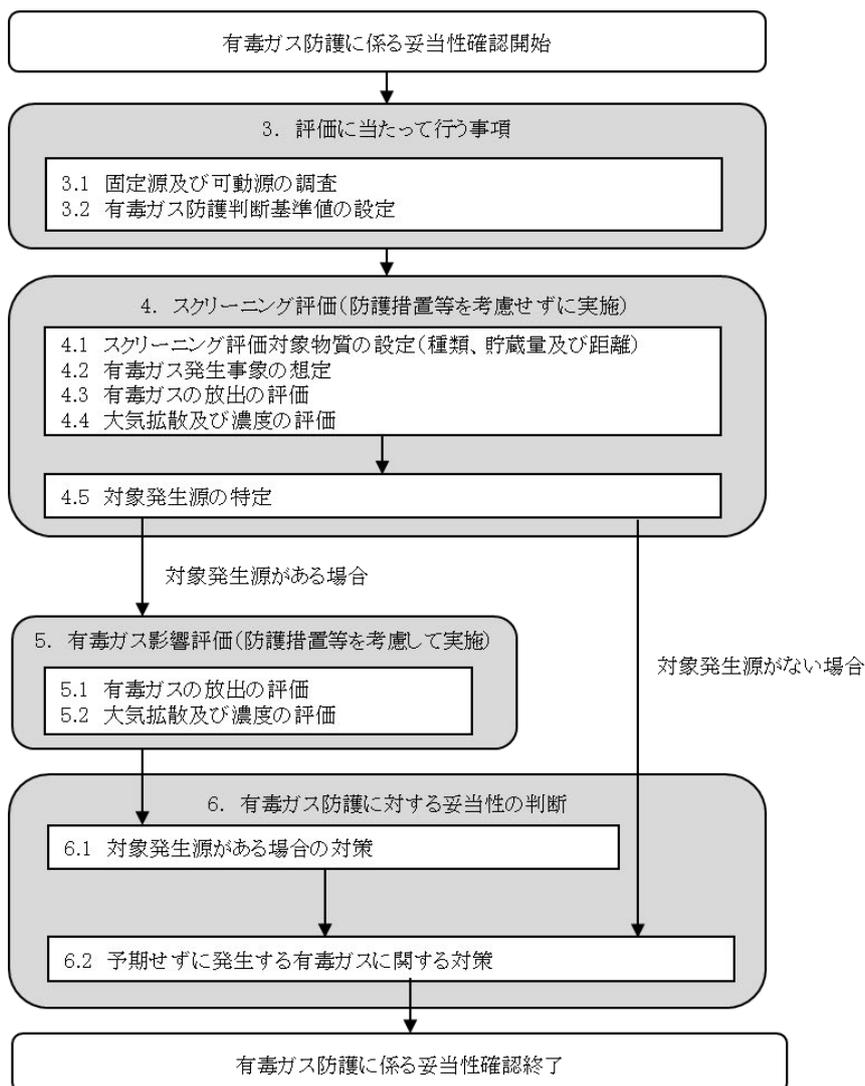


図-1 評価フロー（「有毒ガス防護に係る影響評価ガイド」抜粋）

3. 評価に当たって行う事項

3.1 固定源及び可動源の調査

再処理施設の敷地内の固定源の調査については、まず再処理施設の敷地内で保有している全ての化学物質をリストアップした。化学物質をリストアップする際は、核燃料サイクル工学研究所の共通安全作業要領「消防法に基づく危険物管理要領」、「第4類少量未満危険物管理要領」及び「化学物質等取扱要領」に基づく数量点検結果、在庫調査票を情報源とした。その後、化学物質の性状や保管状況によって調査対象とする有毒化学物質を特定した。

敷地内の可動源については、敷地内でタンクローリー等により多量に輸送される化学物質のうち、化学物質の性状や量によって調査対象とする有毒化学物質を特定した。

敷地外の固定源については、敷地外（再処理施設から10 kmの範囲内）に保管されている化学物質のうち、先行施設の調査方法を参考に再処理施設に影響を及ぼすおそれのある有毒化学物質を特定した。

有毒化学物質の特定に当たっては、ガイドの考え方（ガイド3.1（解説4）の「調査対象外とする場合」）及び電力会社等の先行施設の実施方法を参考に、以下の(1)～(5)のとおり考え方を整理し、図-2のフローを作成した上で、スクリーニング評価を必要とする有毒化学物質に該当するか判断した。

(1) 日用品等の考慮不要とするものについての考え方

ガイド3.1（解説4）の「調査対象外とする場合」を考慮し、日用品のように一般に流通することが許可されているもので、日常的に取り扱われるものについては、運転員等の対処能力へ影響を及ぼす観点で考慮不要と考えられる。したがって、日用品に該当する物については類型化して整理する。類型化して整理する物品の例を以下に示す。

缶スプレー、乾燥剤、接着剤、塗装用品（塗料、うすめ液）、消火剤、
潤滑剤（潤滑油、グリース）、セメント、バッテリー、樹脂 等

(2) 固体及び揮発性が乏しい液体についての考え方

ガイド3.1（解説4）の「調査対象外とする場合」を考慮し、常温で固体又は揮発性が乏しい液体については、以下のとおり蒸発量が少なく気体状の有毒化学物質が大気中へ多量に放出されないことから、調査対象外とする。

- ・ 固体は基本的に揮発性が乏しく、固体又は固体を溶解している水溶液中の固体分子は蒸発量が少ない。
- ・ 化学物質が沸点以上に達すると、沸騰し気化することで多量に大気中へ放出されることから、再処理施設内の一般的な環境として超えることのない100℃を沸点の基準とし、それ以上の沸点を持つ化学物質は揮発性が乏しく、多量に放出されることはない。

(3) 試薬やガスボンベに保管されている化学物質についての考え方

ガイド 3.1 (解説 4) の「調査対象外とする場合」に記載のある、容器に貯蔵されている有毒化学物質の全量が流出しても、有毒ガスが多量に放出されるおそれがない場合として、試薬瓶やガスボンベに保管されている化学物質について以下のとおり整理し、調査対象外とする。

- ・分析試薬等として使用する化学物質は、薬品庫等で適切に保管管理されており、それらの試薬は使用場所も限定されている。また、タンク等と比較して保管量も少ないため、流出しても建家外に多量に放出されるおそれがない。
- ・液化ガスや圧縮ガスは高圧ガス保安法で規定された高圧ガス容器（ボンベ等）で保管されている。高圧ガス容器は高圧ガス保安法に基づいて設計され、容器の耐圧試験、気密試験等を行っており、十分な強度を有している。したがって、高圧ガスの漏えい事故は、容器本体からの漏えいは考えにくく、漏えいした場合であっても少量ずつの漏えいが想定されることから、多量に放出されるおそれがない。
- ・ただし、液化ガス及び圧縮ガスを一律で調査対象外とするのではなく、IDLH 値が低く、かつ(5)に示す有毒物質に該当するものについては調査対象とする。

(4) 屋内に保管されている化学物質についての考え方

ガイド 3.1 (解説 4) の「調査対象外とする場合」に記載のある、容器に貯蔵されている有毒化学物質の全量が流出しても、有毒ガスが多量に放出されるおそれがない場合として、屋内に保管されている化学物質について以下のとおり整理し、調査対象外とする。

- ・建家内に設置されている貯槽やタンクから化学物質が流出した場合、周辺の堰にとどまる又はフロアドレン等に流入する。堰又は流入先の廃液貯槽等にとどまることから、有毒ガスが建家外に多量に放出されることはない。
- ・液体状態からの揮発については、建家内は風量が小さく蒸発量が屋外と比較し小さいことに加え、発生した有毒ガスが建家内に滞留することから、建家外に多量に放出されることはない。

(5) 有毒化学物質についての考え方

ガイドにより、有毒化学物質は「国際科学安全性カード等において、人に対する悪影響が示されている物質」と定義されている。「人に対する悪影響」について、有毒ガス防護判断基準値の定義及び参照情報として採用されている IDLH 値や最大許容濃度の内容は以下のとおりである。

- ・ 有毒ガス防護判断基準値

有毒ガスの急性暴露に関し、中枢神経等への影響を考慮し、運転・対処要員の対処能力に支障を来さないと想定される濃度限界値（ガイドより抜粋）

- ・ IDLH 値

NIOSH（アメリカ国立労働安全衛生研究所）で定められている急性の毒性限度（人間が 30 分暴露された場合、その物質が生命及び健康に対して危険な影響を即時に与える、又は避難能力を妨げる暴露レベルの限界濃度値）

- ・ 最大許容濃度

産業衛生学会誌で定義されている、作業中のどの時間をとっても曝露濃度がこの数値以下であれば、ほとんどすべての労働者に健康上の悪い影響が見られないと判断される濃度（ガイド脚注より抜粋）

上記内容を考慮し、次に示すような悪影響を及ぼす物質を有害化学物質と設定する。

- ・ 中枢神経に影響を与える物質
- ・ 急性毒性(致死性)を有する物質
- ・ 呼吸器障害を引き起こすおそれのある物質

これらの悪影響について調査する情報源としては、国際化学安全性カード（ICSC）による情報を用いることとし、化学物質について、有毒化学物質に該当するか否か判断する。また、ICSCに記載のない化学物質については、国際法令や化学物質の有害性評価等の世界標準システム（GHS）データベース等を参照し判断する。

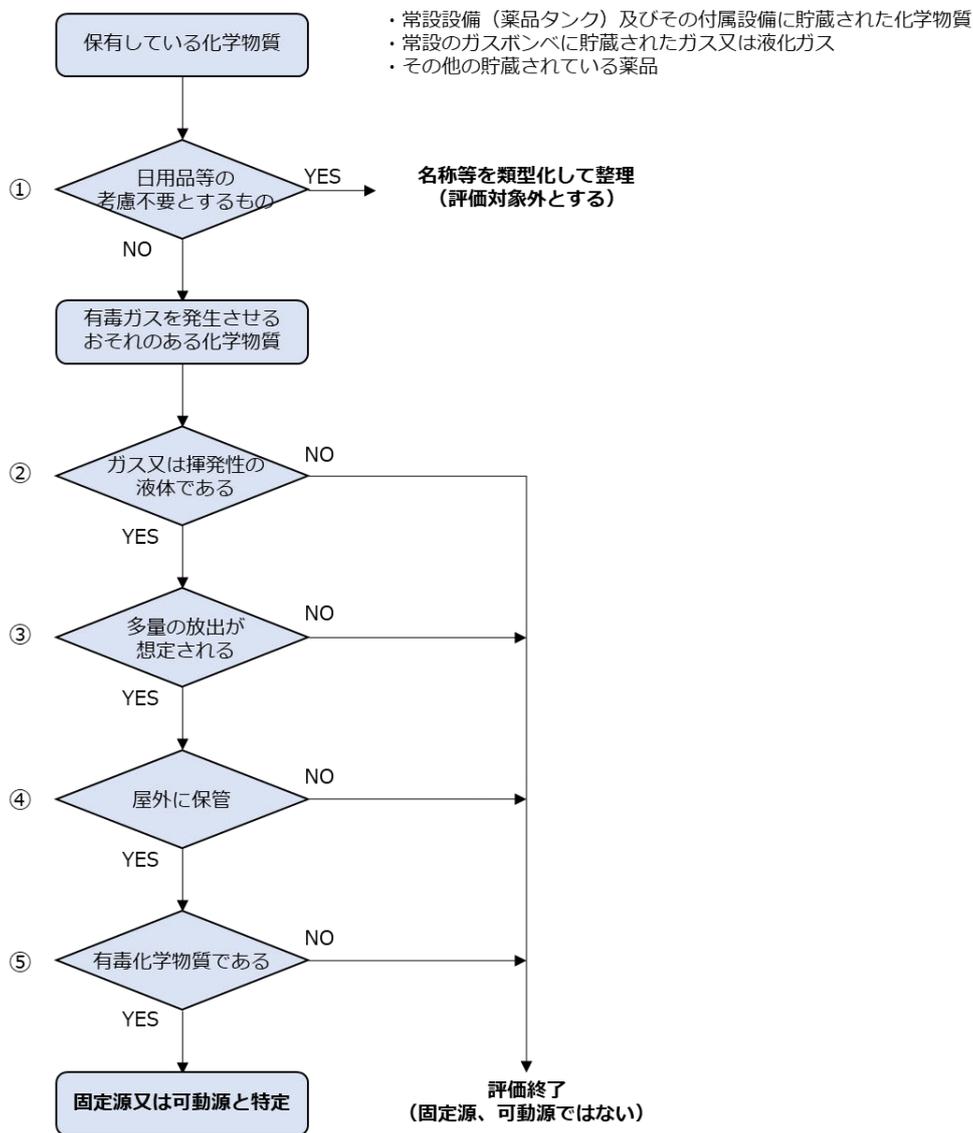


図-2 固定源及び可動源の特定フロー

3.1.1 敷地内固定源

再処理施設の敷地内の有毒化学物質を含む可能性のあるものについて、図-2 のフローに従い以下の判断基準で評価対象の固定源に該当するか整理した。

【判断基準】

①日用品等に該当するかどうか

3.1(1)で示した考え方にに基づき、日用品等の運転員の対処能力へ影響を及ぼすおそれのないものについては評価対象外とした。

②ガス又は揮発性の液体であるかどうか

3.1(2)で示した考え方にに基づき、有毒化学物質を含む可能性のあるもののうち、常温常圧における沸点が100℃を上回る液体及び固体を評価対象外とした。

③多量の放出が想定されるかどうか

3.1(3)で示した考え方にに基づき、沸点が低い物質のうち、試薬瓶等又はガスボンベに保管されている物質については、大気中に有毒ガスが多量に放出されるおそれがないことから評価対象外とした。

④屋外に保管しているかどうか

3.1(4)で示した考え方にに基づき、有毒ガスが多量に放出されるおそれのある化学物質については、保管場所が屋内か屋外かの判別を行い、屋内で貯蔵されている化学物質は、有毒ガスが建家等の内部に滞留し、直ちに大気中に多量に放出される可能性が低いことから評価対象外とした。

⑤有毒化学物質であるかどうか

残った化学物質のうち、3.1(5)で示した考え方にに基づき、国際化学安全性カード(ICSC)等の情報から、運転員へ悪影響を及ぼすおそれのある化学物質(中枢神経に影響を与える、急性毒性(致死性)を有する、又は呼吸器障害を引き起こすおそれのある物質)をスクリーニング評価が必要な固定源とした。

上記①～⑤に基づき固定源に該当するか整理し、敷地内固定源を抽出した結果を表-1に示す。また、敷地内の化学物質のうち、屋外に貯蔵されているものについて主な保管場所を図-3に示す。なお、詳細な調査結果については、表-2から表-5までに示す。

敷地内固定源の整理の結果、有毒化学物質を発生させるおそれがあり、スクリーニング評価を必要とする敷地内固定源には、屋外薬品貯蔵所に貯蔵されているホルマリンが該当することを確認した。しかし、屋外薬品貯蔵所に貯蔵されているホルマリンについては、再処理施設において今後使用する計画がなく、令和3年3月末を目途に廃棄する予定であるため、評価対象外とする。

表-1 敷地内固定源の調査結果（令和3年1月現在）

有毒化学物質	場所	設備	保有量(m ³)
ホルマリン	屋外薬品貯蔵所	薬品貯槽	21

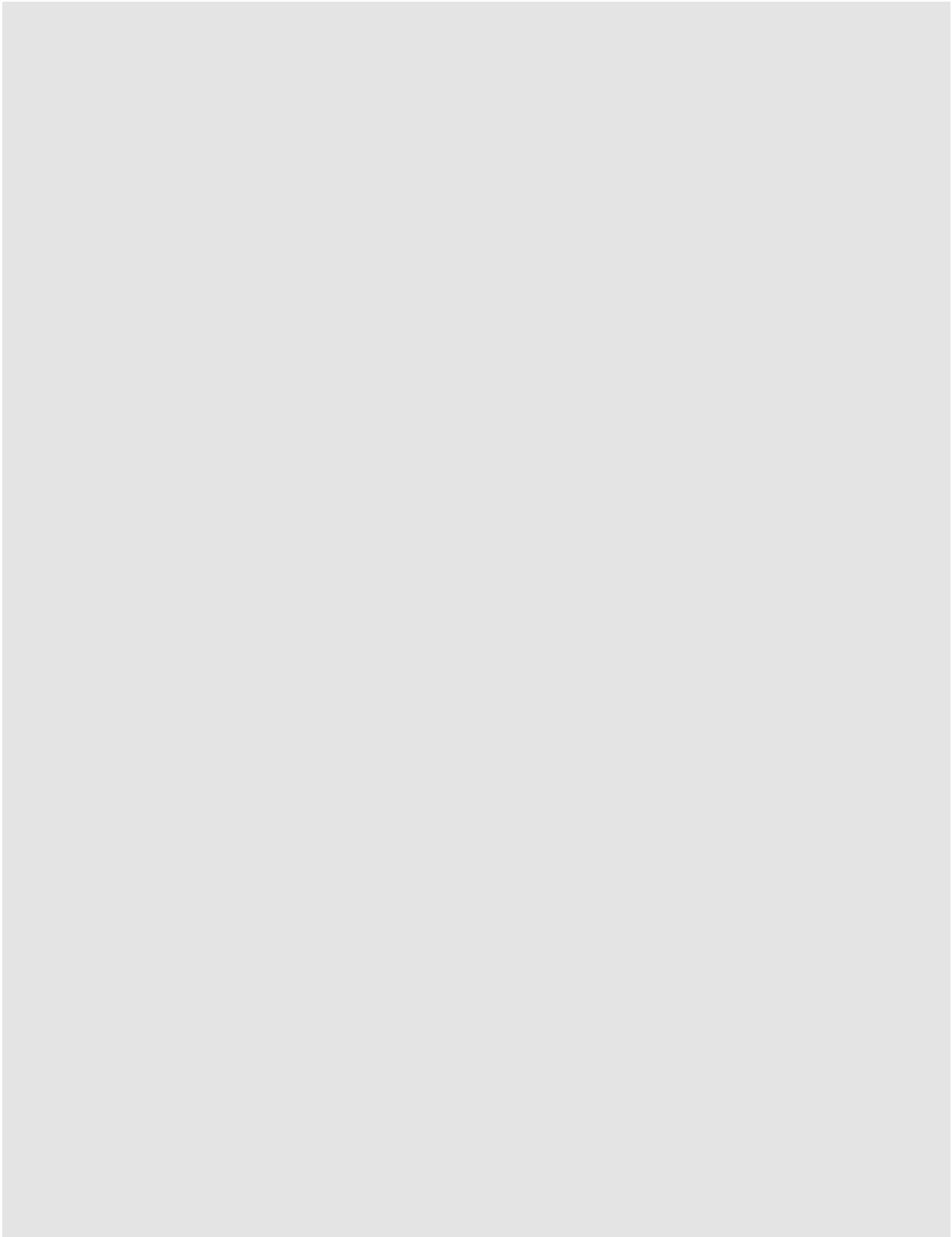


図-3 屋外における主な化学物質の保管場所

6-1-10-1-3-3-9

3.1.2 敷地内可動源

再処理施設の敷地内をタンクローリー等により多量に輸送される化学物質のうち、有毒化学物質を含む可能性のあるものを整理した。有毒化学物質を含む可能性のあるものうち、常温常圧における沸点が100℃を上回るものを評価対象外とした。沸点が低い物質については、国際化学安全性カード（ICSC）等の情報から、運転員へ悪影響を及ぼすおそれのある物質（中枢神経に影響を与える、急性毒性（致死性）を有する、又は呼吸器障害を引き起こすおそれのある物質）に該当するか確認し、該当する化学物質をスクリーニング評価が必要な可動源とした。

敷地内可動源の整理の結果、有毒化学物質を発生させるおそれがあり、スクリーニング評価を必要とする敷地内可動源はないことを確認した。詳細な調査結果については、表-6 に示す。

3.1.3 敷地外固定源

再処理施設の敷地外の固定源の調査に当たって、ガスボンベ及び屋内貯蔵されている化学物質は有毒ガスが多量に放出されるおそれがないことから対象外とし、屋外に設置されている化学物質を貯蔵しているタンク及び貯槽等を調査対象とした。また、調査範囲はガイドに基づき、再処理施設から10 kmの範囲内に存在する施設とする。調査の際は地方公共団体の定める地域防災計画を確認する他、法令等に基づく届出情報の開示請求により得られる敷地外の貯蔵施設の情報に基づき、貯蔵が確認された化学物質の性状から、再処理施設の運転員等へ影響を及ぼすおそれがあるものを敷地外固定源とした。なお、調査対象とする法令は、先行施設の調査方法を参考に、化学物質等の貯蔵量等に係る届け出義務のある以下の法律とした。

- (1) 消防法（開示請求先：周辺自治体消防本部，実施時期：令和2年12月）
- (2) 高圧ガス保安法（開示請求先：都道府県，実施時期：令和3年1月）
- (3) 毒物及び劇物取締法（開示請求先：都道府県，実施時期：令和2年12月）

敷地外固定源の整理の結果、有毒化学物質を発生させるおそれがあり、スクリーニング評価を必要とする敷地外固定源には、アンモニア、ガソリン及びメタノールが該当することを確認した。敷地外固定源を抽出した結果を表-7 に示す。また、敷地外固定源と再処理施設の位置関係を図-4 に示す。詳細な調査結果については、表-8 から表-10 までに示す。

表-7 敷地外固定源の調査結果

有毒化学物質	設置場所	貯蔵方法	保有量	再処理施設からの距離(km)
アンモニア	日本原子力研究開発機構 原子力科学研究所	屋外タンク	0.75 m ³	約 1.5
		屋外タンク	0.75 m ³	約 1.5
アンモニア	日本原子力発電株式会社 東海第二発電所	屋外タンク	1.0 m ³	約 2.8
メタノール	事業者 A	屋外タンク	12.5 m ³	約 4.7
アンモニア	三菱原子燃料株式会社	屋外タンク	17 m ³	約 6.4
ガソリン	事業者 B	屋外タンク	910 m ³	約 7.5
		屋外タンク	2625 m ³	約 7.5

※いずれにおいても、防液堤が設置されていることを確認している。



図-4 敷地外固定源と再処理施設の位置関係 (google map に加筆)

3.1.4 再処理施設において今後使用する可能性のある化学物質

東海再処理施設は廃止措置段階にあり、今後廃止措置を進めていくに当たり、現在は保有していない化学物質であっても、新たに保有し使用する可能性がある。そのため、再処理施設の廃止措置を進める上で、今後10年程度のうちに使用する可能性がある化学物質等という観点から、化学物質の検討を行った。

検討の結果、今後使用する可能性がある化学物質等の中に、有毒化学物質を発生させるおそれがあり、スクリーニング評価を必要とする敷地内固定源に該当するものはないことを確認した。検討結果については、表-11に示す。

なお、今後新たな化学物質等を使用する場合には、図-2 固定源及び可動源の特定フロー等に基づきガイドへの適合性を確認し、運転員へ悪影響を及ぼすおそれのない範囲で使用し、影響を及ぼすことが想定される場合は、必要に応じて防護措置を取ることとする。

3.2 有毒ガス防護判断基準値の設定

固定源又は敷地内可動源として考慮すべき有毒化学物質であるアンモニア、ガソリン及びメタノールについて、ガイドに基づき有毒ガス防護判断基準値を設定した。有毒ガス防護判断基準値を表-11 に示す。また、有毒ガス防護判断基準値の設定に関する考え方を図-5 及び表-12 から表-14 までに示す。

表-11 有毒ガス防護判断基準値

有毒化学物質	有毒ガス防護判断基準値 (ppm)	設定根拠
アンモニア	300	IDLH
ガソリン	100	許容濃度
メタノール	200	許容濃度

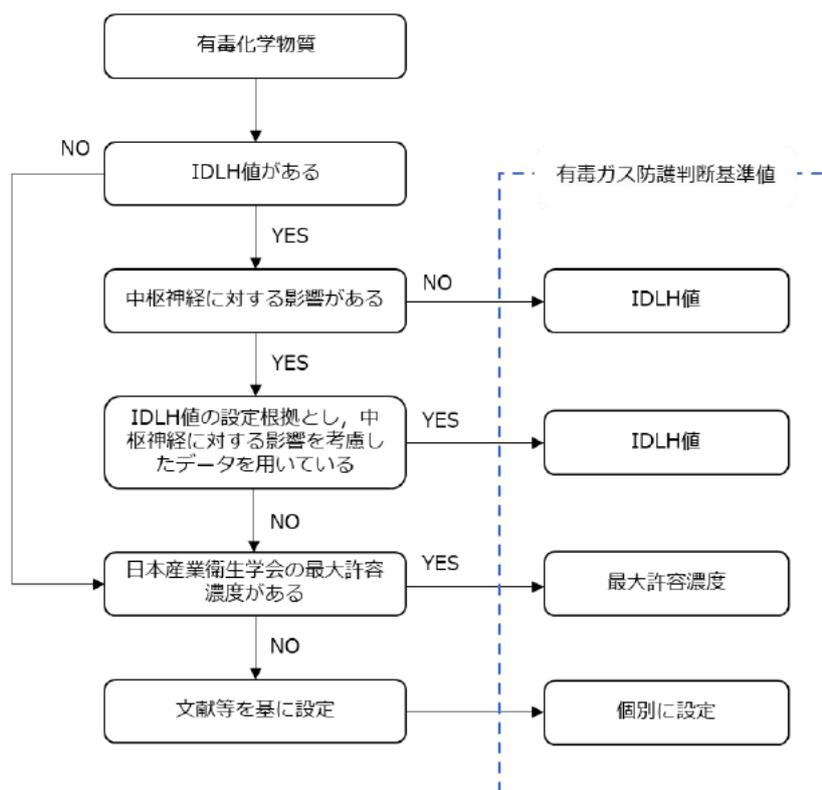


図-5 有毒ガス防護判断基準値の設定フロー

表-12 有毒ガス防護判断基準値設定の考え方（アンモニア）

出 典		記 載 内 容
国際化学物質安全性カード (短期ばく露の影響) (ICSC : 0414)		この液体が急速に気化すると、凍傷を引き起こすことがある。本物質は、眼、皮膚および気道に対して、腐食性を示す。曝露すると、のどが腫れ窒息を引き起こすことがある。吸入すると、眼や気道に腐食の影響が現れてから肺水腫を引き起こすことがある。
IDLH (1994)	基準値	300 ppm
	致死 (LC) データ	1 時間の LC ₅₀ 値 (マウス) が 4,230 ppm 等 [Kapeghian et al. 1982]
	人体のデータ	300 ppm はヒトの急性吸入毒性データに基づいている。 [Henderson and Haggard 1943; Silverman et al. 1946] 最大の短時間ばく露許容値は 0.5~1 時間で 300~500 ppm と報告されている。 [Henderson and Haggard 1943] 500 ppm に 30 分間ばく露した 7 人の被験者において、呼吸数の変化及び中等度から重度の刺激が報告されている。 [Silverman et al. 1946] 中枢神経に対する影響は明示されていない。



IDLH 値の 300 ppm を有毒ガス防護判断基準値とする

表-13 有毒ガス防護判断基準値設定の考え方 (ガソリン)

出典		記載内容
国際化学物質安全性カード (短期ばく露の影響) (ICSC : 1400)		本物質は、眼、皮膚および気道を刺激する。液体を飲み込むと、肺に吸い込んで化学性肺炎を起こすことがある。中枢神経系に影響を与えることがある。
ばく露 限界値	IDLH	なし
	日本産業衛生学会 最大許容濃度	なし
	TLV-TWA [※] (8時間の時間荷重平均の環境許容濃度)	300 ppm

※ACGIH が定めた作業環境許容濃度 (Threshold Limit Value Time-Weighted Average)



出典		記載内容
日本産業衛生学会	最大許容濃度	なし
	許容濃度 [※]	100 ppm

※1日8時間、週間40時間程度曝された場合に、ほとんどの労働者に悪い影響が見られない平均曝露濃度



許容濃度の 100 ppm を有毒ガス防護判断基準値とする

表-14 有毒ガス防護判断基準値設定の考え方（メタノール）

出典		記載内容
国際化学物質安全性カード (短期ばく露の影響) (ICSC : 0057)		本物質は、眼、皮膚および気道を刺激する。中枢神経系に影響を与えることがある。意識喪失を生じることがある。曝露すると、失明および死を引き起こすことがある。これらの影響は、遅れて現われることがある。医学的な経過観察が必要である。
ばく露 限界値	IDLH	6000 ppm
	致死 (LC) データ	2 時間の LC ₁₀ 値 (マウス) が 37,594 ppm 等 [Izmerov et al. 1982]
	人体のデータ	なし。 中枢神経に対する影響は明示されていない。



出典		記載内容
NIOSH (アメリカ国立労働 安全衛生研究所)	IDLH	動物の急性吸入毒性データに基づく値は 6000 ppm [Izmerovetal. 1982]
日本産業衛生学会	最大許容濃度	なし
	許容濃度*	200 ppm

※1 日 8 時間、週間 40 時間程度曝された場合に、ほとんどの労働者に悪い影響が見られない平均曝露濃度



許容濃度の 200 ppm を有毒ガス防護判断基準値とする

4. スクリーニング評価

敷地外固定源からの有毒ガスの発生を想定し、ガイドに従い防護措置を考慮せずに再処理施設における有毒ガス濃度の評価を実施する。

4.1 スクリーニング評価対象物質の設定

3.1 で評価対象として特定した有毒化学物質をスクリーニング評価対象とする。

4.2 有毒ガス発生事象の想定

敷地外の固定源については、同時にすべての貯蔵容器が損傷し、当該すべての容器に貯蔵された有毒化学物質の全量流出により発生する有毒ガスを想定する。

4.3 対象発生源の特定

再処理施設において評価対象としている施設外固定源（アンモニア）については、近隣の原子力施設（日本原子力発電株式会社）が先行して有毒ガス影響評価を実施している。先行施設の評価結果の概略を表-15 に示す。近隣の原子力施設に設置されているアンモニアタンクの評価結果は、評価点（離隔距離約 120 m）における有毒ガス濃度が、アンモニアの有毒ガス防護判断基準値である 300 ppm を下回っており、影響はないとしている。

一方、近隣の原子力施設に設置されているアンモニアタンクから再処理施設までの離隔距離は約 2.8 km であり、先行施設の評価条件より十分な離隔距離がある。一般的に大気拡散の実用的なモデルとして用いられているガウスプルームモデルでは、放出ガスは発生源の周りにガウス分布型で広がることを想定しており、放出ガスの濃度は概ね距離に比例して低下する。このため、離隔距離の大きい再処理施設の評価点においては、有毒ガスが周囲の空気に十分希釈され、高濃度になることはない。

また、日本原子力研究開発機構原子力科学研究所に設置されているアンモニアタンクから再処理施設までの離隔距離は約 1.5 km、三菱原子燃料株式会社に設置されているアンモニアタンクから再処理施設までの離隔距離は約 6.4 km であり、先行施設に設置されているアンモニアタンクと比較し容量が同等あるいは上回っているものの、離隔距離が十分大きいことから、同様に再処理施設内で高濃度になることはない。

その他の評価対象であるガソリン及びメタノールについては、以下の理由からアンモニアと比較し、制御室の居住性への影響は小さいと判断できる。

- ・アンモニアに対して蒸気圧が低いため、揮発量が小さい。

（アンモニア：約 1.1 MPa, ガソリン：約 5.5×10^{-2} MPa, メタノール：約 1.3×10^{-2} MPa）

- ・離隔距離が 4.7 km～7.5 km と大きく、有毒ガスが周囲の空気に十分希釈され、高濃度になることはない。

以上より、再処理施設において、運転員等の対処能力が著しく損なわれるおそれのある有毒ガスの対象発生源はなく、必要となる防護対策はない。

表-15 近隣の原子力施設の評価結果概要（アンモニア）

発生源	評価点	離隔距離(m)	有毒ガス濃度 (ppm)	判断基準値 (ppm)
アンモニアタンク (1.0 m ³)	中央制御室 換気系給気口	約 120	2.62	300

「日本原子力発電株式会社 外部からの衝撃による損傷の防止 6条(外事)-添付-12」に基づき作成

5. 有毒ガス防護に対する妥当性の判断

5.1 対象発生源がある場合の対策

再処理施設において、有毒ガス防護対策を必要とする有毒ガスの発生源はなく、「対象発生源がある場合の対策」に該当するものはない。

5.2 予期せず発生する有毒ガスに関する対策

予期せぬ有毒ガスの発生を考慮し、制御室に常駐している運転員の対処能力が著しく損なわれることがないように、ガイドの要求に基づく対策として以下を実施する。

有毒ガス発生の情報や異臭の連絡を受けた場合、分離精製工場（MP）中央制御室及びガラス固化技術開発施設（TVF）制御室に常駐している運転員に対して、予期せぬ有毒ガスの発生を知らせるための手順及び実施体制を整備する。また、ガラス固化技術開発施設（TVF）制御室において、高放射性廃液貯蔵場（HAW）及びガラス固化技術開発施設（TVF）ガラス固化技術開発棟の重要な安全機能に係るパラメータ監視等の対応を行う必要がある要員に対して、必要量の酸素呼吸器を配備するとともに、予期せず発生する有毒ガスからの防護のための手順及び実施体制を整備する。

なお、添付資料 6-1-10-1-3「再処理施設の制御室の安全対策について」において、高放射性廃液に関する機能を集約することとしているガラス固化技術開発施設（TVF）制御室については、上記の対策に加え、制御室を外気から遮断するための給気用ダンパの操作手順を整備し、予期せぬ有毒ガスの制御室への流入を防止できるようにする。

6. まとめ

再処理施設敷地内の固定源及び可動源調査を実施した結果、屋外薬品貯蔵所に貯蔵しているホルマリンがスクリーニング評価の必要な敷地内固定源に該当することを確認した。ただし、屋外薬品貯蔵所のホルマリンについては、再処理施設において今後使用する計画がなく、令和3年3月末を目途に廃棄する予定である。

また、再処理施設敷地外の固定源調査を実施した結果、アンモニア、ガソリン及びメタノールが施設外固定源に該当することを確認した。アンモニアタンクはいずれも再処理施設までの離隔距離が大きい（1.5 km 以上）ことから影響はない。また、ガソリン及びメタノールはアンモニアと比較し揮発量が少なく、離隔距離も大きい（4.5 km 以上）ため、同様に影響はない。

以上から、再処理施設において、有毒ガス防護対策を必要とする有毒ガスの発生源はない。なお、予期せず発生する有毒ガスに関する対策として、ガイドに基づき酸素呼吸器等の保護具を配備すると共に、有毒ガスからの防護のための手順及び実施体制を整備することとする。

表-2 敷地内固定源整理表（タンク類）（1/2）

内容量は令和2年9月時点の値

化学物質の保有状況				固定源の特定												
化学物質名称	保管場所		貯蔵施設	内容量		最大保有量 ^{※1}		判断基準 ^{※2}					事由	固定源		
	建家	部屋		値	単位	値	単位	①	②	③	④	⑤				
TBP	ST	R005	TBP貯槽	4800	L	19960	L	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	AAF	R022	廃希釈剤貯槽	2100	L	19100	L	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
TBP、ドデカン	AAF	R023	廃溶媒・廃希釈剤貯槽	16900	L	19100	L	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	LW	R031	廃溶媒貯槽	15800	L	19940	L	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	LW	R032	廃溶媒貯槽	17600	L	19100	L	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	WS	R020	廃溶媒貯槽	9700	L	19919	L	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	WS	R021	廃溶媒貯槽	17300	L	19919	L	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	WS	R022	廃溶媒貯槽	16300	L	19919	L	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	WS	R023	廃溶媒貯槽	11700	L	19919	L	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	ST	R006	受入貯槽	6400	L	19960	L	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	IF	A005	回収ドデカン貯槽	196	L	2200	L	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
亜硫酸ナトリウム水溶液	LWTF	G213	亜硫酸ナトリウム溶解槽	0.44	m ³	2.3	m ³	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
液化窒素	PCDF	屋外（地上）	液化窒素タンク	3210	L	3799	L	○	○	○	○	×	×	×	有毒化学物質ではない	否
	Kr	屋外（地上）	液化窒素貯槽	5.5	m ³	26.6	m ³	○	○	○	○	×	×	×	有毒化学物質ではない	否
エポキシ樹脂	ST	G210	エポキシ樹脂貯槽	1300	L	2100	L	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
オクチル酸カルシウム	AAF	屋外（地上）	試薬貯槽	0	L	1200	L	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
軽油	中間開閉所	屋外（地下）	地下タンク貯蔵所	23000	L	30000	L	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	中間開閉所	非常用発電機室	燃料小出槽	820	L	2729	L	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	第二中間開閉所	屋外（地下）	地下タンク貯蔵所	32000	L	45000	L	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	第二中間開閉所	非常用発電機室	燃料小出槽	861	L	1730	L	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	TVF	屋外（地下）	地下タンク貯蔵所	18900	L	25000	L	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	TVF	非常用発電機室	燃料小出槽	360	L	490	L	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	再UC	屋外（地下）	地下タンク貯蔵所	81100	L	114000	L	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	再UC	非常用発電機室	燃料小出槽	740	L	27000	L	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	再UC	非常用発電機室	燃料小出槽	800	L	27000	L	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	LWTF	屋外（地下）	地下タンク貯蔵所	23400	L	30000	L	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	LWTF	発電機室	燃料小出槽	240	L	5400	L	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	軽換駐車場	危険物貯蔵庫	ドラム缶・携行缶	756.00	L	900.00	L	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ケロシン	AAF	屋外（地上）	燃料貯槽	1500	L	4600	L	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	LWTF	屋外（地上）	灯油貯槽	4557	L	7500	L	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ケロシン、オクチル酸カルシウム	IF	A308	廃活性炭供給槽	0	L	690	L	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硝酸（0.5%）	LWTF	G213	硝酸供給槽	1.14	m ³	2.4	m ³	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硝酸（5%）	C施設	A207	薬品貯槽	0	L	2000	L	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	Z施設	A005	薬品貯槽	2310	L	5180	L	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硝酸（60%）	ASP	G415	貯槽	1.13	m ³	1.13	m ³	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	薬品貯蔵所	屋外（地上）	薬品貯槽	15	m ³	50	m ³	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硝酸（62%）	PCDF	屋外（地上）	屋外硝酸貯槽	9.30	L	1000.00	L	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	LWTF	G213	薬品貯槽	2.72	m ³	9.5	m ³	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	TVF	屋外（地上）	薬品貯槽	288	L	1200	L	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	Z施設	G104	薬品貯槽	0	L	5020	L	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	AAF	A405	薬品貯槽	0	L	5000	L	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	E施設	A-3	薬品貯槽	0	L	2500	L	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硝酸銀水溶液	LWTF	G213	硝酸銀溶解槽	0.54	m ³	1.1	m ³	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硝酸第二鉄水溶液	LWTF	G213	硝酸第二鉄溶解槽	1.74	m ³	3.3	m ³	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
水酸化ナトリウム（25%）	TVF	屋外（地上）	薬品貯槽	680	L	1200	L	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	AAF	G201	薬品貯槽	3080	L	5080	L	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	Z施設	G104	薬品貯槽	1520	L	6200	L	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	E施設	A-3	薬品貯槽	0	L	2500	L	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
水酸化ナトリウム（3%）	LWTF	G213	水酸化ナトリウム供給槽	0.60	m ³	2.55	m ³	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	Z施設	A005	薬品貯槽	1450	L	5110	L	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	C施設	A207	薬品貯槽	380	L	2000	L	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否

※1 貯蔵施設ごとに保有可能な量又は消防法に基づき許可された危険物の取扱い量等による最大保有量を記載

※2 フローに基づき以下の①～⑤の順に該当するか確認し、該当しないものは固定源ではないと判断する。

①日用品等ではない。②ガス又は揮発性の液体である。③多量の放出が想定される。④屋外保管している。⑤有毒化学物質である

建家名略称 MP：分離精製工場 CB：分析所 TVF：ガラス固化技術開発施設 PCDF：プルトニウム転換技術開発施設

ASP：アスファルト固化処理施設 AS-1：アスファルト固化体貯蔵施設 AS-2：第二アスファルト固化体貯蔵施設

2 HASWS：第二高放射性固体廃棄物貯蔵施設 E施設：第二低放射性廃液蒸発処理施設 Z施設：第三低放射性廃液蒸発処理施設

C施設：放出廃液油除去施設 ST：廃溶媒処理技術開発施設 AAF：廃棄物処理場 Kr：クリプトン回収技術開発施設

表-2 敷地内固定源整理表（タンク類）（2/2）

内容量は令和2年9月時点の値

化学物質名称	化学物質の保有状況				固定源の特定									
	保管場所		貯蔵施設	内容量		最大保有量 ^{※1}		判断基準 ^{※2}					事由	固定源
	建家	部屋		値	単位	値	単位	①	②	③	④	⑤		
水酸化ナトリウム（30%）	薬品貯蔵所	屋外（地上）	薬品貯槽	25	m ³	50	m ³	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	LWTF	G213	薬品貯槽	1.63	m ³	6.0	m ³	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	IF	A107	薬品貯槽	360.3	L	630	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	ASP	G415	貯槽	1.04	m ³	1.04	m ³	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
炭酸ナトリウム	ST	G210	薬品貯槽	1700	L	2030	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	AAF	G201	薬品貯槽	250	g	1500	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ドデカン	AAF	G401	薬品貯槽	50	g	650000	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	ST	A013	希釈剤貯槽	8500	L	20000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	ST	R007	薄シリカゲル貯槽	6600	L	19960	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ホルマリン	ST	A012	希釈剤中間貯槽	830	L	1500	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	薬品貯蔵所	屋外（地上）	薬品貯槽	21	m ³	30	m ³	○	○	○	○	○	—	該当
硫酸	薬品貯蔵所	屋外（地上）	薬品貯槽	7	m ³	10	m ³	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否

※1 貯蔵施設ごとに保有可能な量又は消防法に基づき許可された危険物の取扱量等による最大保有量を記載

※2 フローに基づき以下の①～⑤の順に該当するか確認し、該当しないものは固定源ではないと判断する。

①日用品等ではない。②ガス又は揮発性の液体である。③多量の放出が想定される。④屋外保管している。⑤有毒化学物質である

建家名略称 MP：分離精製工場 CB：分析所 TVF：ガラス固化技術開発施設 PCDF：プルトニウム転換技術開発施設

ASP：アスファルト固化処理施設 AS-1：アスファルト固化体貯蔵施設 AS-2：第二アスファルト固化体貯蔵施設

2 HASWS：第二高放射性固体廃棄物貯蔵施設 E 施設：第二低放射性廃液蒸発処理施設 Z 施設：第三低放射性廃液蒸発処理施設

C 施設：放出廃液油分除去施設 ST：廃溶媒処理技術開発施設 AAF：廃棄物処理場 Kr：クリプトン回収技術開発施設

表-3 敷地内固定源整理表（試薬類）（1/15）

内容量は令和2年9月時点の値

化学物質名称	化学物質の保有状況				固定源の特定									
	保管場所		貯蔵容器等	内容量		最大保有量 ^{※1}		判断基準 ^{※2}					事由	固定源
	建家	部屋		値	単位	値	単位	①	②	③	④	⑤		
1-(2-ピリジルアゾ)-2-ナフトール	CB	G013	ガラス瓶	2	g	3	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
1,5-ジフェニルカルボノヒドРАЗド	CB	G120	ガラス瓶	25	g	25	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
18-クラウン 6-エーテル	CB	G120	ガラス瓶	15	g	25	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
1-ピロリジンカルボジチオ酸アンモニウム	CB	G120	ガラス瓶	1	g	2	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
2-(1,1'-ピフェニル-4-イル)-6-フェニルベンゾキサゾール	CB	G013	ガラス瓶	1	g	1	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
2,5ジフェニルオキサゾール	CB	G013	ガラス瓶	100	g	100	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
2,6ジイソプロピルナフタレン	CB	G013	ガラス瓶	75	g	75	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
2-2,4トリメチルペンタン（第一石油類）	AS-2	G012	ガラス瓶	0.50	L	0.50	L	○	×	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
2-3Dibromopropionic Acid Silver Salt	AS-2	G314	ガラス瓶	0.025	kg	0.05	kg	○	×	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
2-ヒドロキシシソノ酸	CB	G120	ポリ容器	100	mL	200	mL	○	×	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
4-(2-ピリジルアゾ) レゾルシノール	屋外少量未満危険物保管箱		ガラス瓶	5	g	5	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
4,4,4-トリフルオロ-1-(2-フェニル)-1,3-ブタジオン	AS-2	G314	ガラス瓶	0.50	kg	0.50	kg	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
5-スルホサリチル酸二水和物	CB	G120	ガラス瓶	25	g	50	g	○	×	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
Bis-Tris(Bis(2-hydroxyethyl)iminotris(hydroxymethyl)-methane	CB	G013	ガラス瓶	100	g	200	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ICP-MS校正用標準液(AFT Multi-Element Solution, 2% HNO_3)	CB	G122	ポリ容器	100	mL	100	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ICP-MS校正用標準液(XSTC-289, 5% HNO_3)	CB	G120	ポリ容器	100	mL	100	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
KRS5(ZnSe:分光器透過窓)	CB	G122	ポリ容器	1	個	1	個	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G122	ポリ容器	1	個	1	個	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
N,N-ジエチルエタノールアミン	CB	G120	ガラス瓶	25	mL	50	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
N-1-ナフテルエチレンジアミン	AS-2	G314	ガラス瓶	0.025	kg	0.025	kg	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ガラス瓶	25	g	25	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
N-1-ナフテルエチレンジアミン二塩酸塩	CB	G013	ガラス瓶	275	g	450	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ポリ容器	50	g	200	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	AS-2	G314	ガラス瓶	0.03	kg	0.03	kg	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	PCDF	A228	ガラス瓶	178	g	—	—	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
o-フェナントリン (1, 10-フェナントリン)	TVF	A120	ポリ容器	100	g	100	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ガラス瓶	100	g	200	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ガラス瓶	325	g	500	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
PAR	AS-2	G314	ガラス瓶	0.005	kg	0.005	kg	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
pH計比較電極内部液 (KCl)	AAF	G015	ポリ瓶	560	mL	1000	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	C施設	C208	ポリ瓶	1500	mL	2500	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
pH標準液 (炭酸pH10.02)	AAF	G105	ポリ瓶	2.5	L	20.0	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	TVF	A120	ポリ容器	1	L	2	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ポリ容器	500	g	500	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
pH標準液 (中性リン酸pH6.86)	AAF	G105	ポリ瓶	2.0	L	20.0	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ポリ容器	2500	mL	5000	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	AS-2	G314	ポリ瓶	0.50	L	0.50	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	AS-2	G314	ポリ瓶	1.50	kg	1.50	kg	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ポリ容器	500	g	500	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	AAF	G105	ポリ瓶	2.5	L	22.0	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ポリ容器	2500	mL	5000	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	TVF	A120	ポリ容器	1	L	2	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ポリ容器	500	g	500	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
pH標準液 (ホウ酸pH9.18)	AAF	G105	ポリ瓶	2.5	L	23.0	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	—	0	mL	5000	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
p-ジメチルアミノベンズアルデヒド	CB	G013	ガラス瓶	9000	g	14500	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
p-ジメチルアミノベンズルホン酸	CB	G120	ガラス瓶	500	g	1500	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
P-トルエンスルホン酸銀	AS-2	G314	ガラス瓶	0.02	kg	0.02	kg	○	×	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
p-ヒドロキシ安息香酸	CB	G013	ポリ容器	125	g	225	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
TPTZ(2,4,6-Tris(2-Pyridyl)-1,3,5-triazine	AS-2	G314	ガラス瓶	0.01	kg	0.01	kg	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ガラス瓶	500	g	1000	g	○	×	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
	CB	G013	ガラス瓶	700	g	1025	g	○	×	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否

※1 貯蔵施設ごとに保有可能な量又は消防法に基づき許可された危険物の取扱い量等による最大保有量を記載

※2 フローに基づき以下の①～⑤の順に該当するか確認し、該当しないものは固定源ではないと判断する。

①日用品等ではない。②ガス又は揮発性の液体である。③多量の放出が想定される。④屋外保管している。⑤有毒化学物質である

建家名略称 MP：分離精製工場 CB：分析所 TVF：ガラス固化技術開発施設 PCDF：プルトニウム転換技術開発施設

ASP：アスファルト固化処理施設 AS-1：アスファルト固化体貯蔵施設 AS-2：第二アスファルト固化体貯蔵施設

2 HASWS：第二高放射性固体廃棄物貯蔵施設 E 施設：第二低放射性廃液蒸発処理施設 Z 施設：第三低放射性廃液蒸発処理施設

C 施設：放出廃液油除去施設 ST：廃溶媒処理技術開発施設 AAF：廃棄物処理場 Kr：クリプトン回収技術開発施設

表-3 敷地内固定源整理表（試薬類）（2/15）

内容量は令和2年9月時点の値

化学物質名称	化学物質の保有状況						固定源の特定									
	保管場所		貯蔵容器等	内容量		最大保有量 ^{※1}		判断基準 ^{※2}					事由	固定源		
	建家	部屋		値	単位	値	単位	①	②	③	④	⑤				
β-アラニン	CB	G013	ガラス瓶	500	g	750	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
β-フェチネルアミン	CB	G120	ガラス瓶	1500	mL	1500	mL	○	○	×	—	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
亜鉛標準液	AS-2	G314	ポリ瓶	0.10	kg	0.10	kg	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ポリ容器	100	mL	200	mL	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
亜硝酸ナトリウム	AS-2	G314	ガラス瓶	0.213	kg	0.213	kg	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	PCDF	A228	ポリ容器	500	g	—	—	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	TVF	A120	ポリ容器	4.024	g	5.000	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G117	ポリ容器	1500	g	10500	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
アスコルビン酸	CB	G120	ポリ容器	1000	g	2500	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	PCDF	A228	ガラス瓶	99	g	—	—	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ガラス瓶	1500	g	4500	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
アセトニトリル	CB	G120	ガラス瓶	1500	mL	4000	mL	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	AS-2	G314	ガラス瓶	0.025	kg	0.10	kg	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ポリ容器	500	g	500	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
アセトン	CB	G117	ガラス瓶	100	mL	100	mL	○	○	×	—	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
	IF	A305	—	0	L	5	L	○	○	×	—	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
	CB	A114	缶	18	L	36	L	○	○	×	—	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
	PCDF	A122	缶	0.00	L	1.00	L	○	○	×	—	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
アミド硫酸	TVF	A215	ガラス瓶	2.5	L	16	L	○	○	×	—	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
	AS-2	G314	ガラス瓶	0.05	kg	0.05	kg	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	PCDF	A228	ガラス瓶	3770	g	—	—	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	PCDF	A230	ガラス瓶	110	g	—	—	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
亜硫酸水素ナトリウム	TVF	A120	ポリ容器	1838	g	2500	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	AS-2	G314	ガラス瓶	0.50	kg	0.50	kg	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
亜硫酸ソーダ	AS-2	G314	ドラム缶	900.00	kg	900.00	kg	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	AS-2	G314	ガラス瓶	3.00	kg	3.00	kg	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
亜硫酸ナトリウム	CB	G013	ポリ容器	10500	g	16000	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ポリ容器	1000	g	1500	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
アルセナソルⅢ	CB	G122	ガラス瓶	5	g	5	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G122	ガラス瓶	4	g	5	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
アルミニウム標準液	CB	G120	ポリ容器	100	mL	200	mL	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
アルミノン	CB	G013	ガラス瓶	25	g	25	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
アンチモン標準液	AS-2	G314	ポリ瓶	0.10	L	0.10	L	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ポリ容器	100	mL	200	mL	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
アンモニア水	AS-2	G314	ポリ瓶	0.70	L	1.50	L	○	×	—	—	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
	TVF	A120	ポリ容器	2.5	L	9.0	L	○	×	—	—	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
	CB	G013	ポリ容器	8000	mL	10000	mL	○	×	—	—	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
	CB	G120	ポリ容器	1000	mL	1500	mL	○	×	—	—	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
イッテルビウム標準液	CB	G120	ポリ容器	100	mL	200	mL	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
イットリウム標準液	AS-2	G314	ポリ瓶	0.30	kg	0.30	kg	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ポリ容器	100	mL	200	mL	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
インジウム標準液	CB	G120	ポリ容器	100	mL	200	mL	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ウンデカン	屋外少量未満危険物保管箱	ガラス瓶	25	mL	25	mL	○	×	—	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	AS-2	G012	ガラス瓶	0.25	L	0.25	L	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
エタノールアミン	MP	A247	ガラス瓶	1.00	L	1.00	L	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	A323	ガラス瓶	13.5	L	90.0	L	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	TVF	G141	ガラス瓶	12.5	L	40.0	L	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	TVF	A213	ガラス瓶	110.0	L	258.0	L	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
エチルアルコール	CB	G316	ガラス瓶	7.7	L	16.0	L	○	×	—	—	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
	CB	A323	ガラス瓶	6.0	L	6.0	L	○	×	—	—	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
	TVF	G141	ガラス瓶	2.5	L	8.0	L	○	×	—	—	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
TVF	A213	ガラス瓶	3.8	L	9.0	L	○	×	—	—	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否	

※1 貯蔵施設ごとに保有可能な量又は消防法に基づき許可された危険物の取扱量等による最大保有量を記載

※2 フローに基づき以下の①～⑤の順に該当するか確認し、該当しないものは固定源ではないと判断する。

①日用品等ではない。②ガス又は揮発性の液体である。③多量の放出が想定される。④屋外保管している。⑤有毒化学物質である

建家名略称 MP：分離精製工場 CB：分析所 TVF：ガラス固化技術開発施設 PCDF：プルトニウム転換技術開発施設

ASP：アスファルト固化処理施設 AS-1：アスファルト固化体貯蔵施設 AS-2：第二アスファルト固化体貯蔵施設

2 HASWS：第二高放射性固体廃棄物貯蔵施設 E 施設：第二低放射性廃液蒸発処理施設 Z 施設：第三低放射性廃液蒸発処理施設

C 施設：放出廃液油除去施設 ST：廃溶媒処理技術開発施設 AAF：廃棄物処理場 Kr：クリプトン回収技術開発施設

表-3 敷地内固定源整理表（試薬類）（3/15）

内容量は令和2年9月時点の値

化学物質名称	化学物質の保有状況						固定源の特定							
	保管場所		貯蔵容器等	内容量		最大保有量 ^{※1}		判断基準 ^{※2}					事由	固定源
	建家	部屋		値	単位	値	単位	①	②	③	④	⑤		
エチルアルコール	AS-2	G012	ガラス瓶	1.00	L	1.00	L	○	○	×	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
	2 HASWS	A301	—	0.00	L	4.00	L	○	○	×	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
	一般廃棄物処理建家		缶	0.50	L	1.00	L	○	○	×	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
	CB	G120	ガラス瓶	3000	mL	4000	mL	○	○	×	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
	屋外少量未滴危険物保管箱		ガラス瓶	12000	mL	12000	mL	○	○	×	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
	PCDF	A227	ガラス瓶	4000	mL	6000	mL	○	○	×	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
	PCDF	A230	ガラス瓶	4000	mL	7000	mL	○	○	×	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
	TVF	A120	缶	27	L	40	L	○	○	×	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
	PCDF	A128	ガラス瓶	4.00	L	5.00	L	○	○	×	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
	PCDF	A029	ガラス瓶	9.00	L	10.00	L	○	○	×	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
	PCDF	A022	ガラス瓶	6.00	L	6.00	L	○	○	×	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
	PCDF	A026	ガラス瓶	20.00	L	20.00	L	○	○	×	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
	PCDF	A122	ガラス瓶	16.00	L	17.50	L	○	○	×	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
エチレングリコール	CB	G316	缶・ポリ容器	35.0	L	40.0	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	TVF	G141	缶・ポリ容器	37.0	L	40.0	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	TVF	A213	缶・ポリ容器	79.0	L	80.0	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	PCDF	G314	缶	20.00	L	20.00	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
エチレンジアミン	AS-2	G012	ガラス瓶	0.50	L	0.50	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
エチレンジアミン四酢酸	AS-2	G314	ガラス瓶	0.50	kg	0.50	kg	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
エチレンジアミン四酢酸二ナトリウム（EDTA）	TVF	A120	ポリ容器	382	g	1000	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	AS-2	G314	ガラス瓶	0.50	kg	0.50	kg	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ポリ容器	500	g	1500	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ポリ容器	25	g	50	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ポリ容器	500	g	2500	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
エルビウム標準液	CB	G120	ポリ容器	100	mL	200	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
塩化アンモニウム	CB	G013	ポリ容器	11500	g	17500	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ポリ容器	1000	g	1500	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
塩化カリウム	AS-2	G314	ガラス瓶	1.00	kg	1.00	kg	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	AAF	G401	紙袋	19344	g	80000	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	AAF	G401	紙袋	3472	g	20000	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ポリ容器	11000	g	16500	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	PCDF	A228	ポリ容器	420	g	—	—	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ポリ容器	500	g	500	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
塩化カルシウム	CB	G013	ポリ容器	1000	g	1500	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
塩化銀(I)	CB	G013	ポリ容器	500	g	500	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
塩化スズ(II)二水和物	CB	G120	ガラス瓶	500	g	1000	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
塩化ストロンチウム	AS-2	G314	ガラス瓶	0.05	kg	0.05	kg	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
塩化鉄(III)六水和物	CB	G013	ポリ容器	6500	g	10000	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ポリ容器	500	g	1000	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
塩化ナトリウム	AS-2	G314	ガラス瓶	0.15	kg	0.15	kg	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
CB	G013	ポリ容器	500	g	500	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否	
塩化鉛	CB	G120	ポリ容器	500	g	1000	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
塩化パラジウム(II)	CB	G120	ポリ容器	5	g	5	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
塩化バリウム	CB	G120	ポリ容器	500	g	1000	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
塩化ヒドロキシランモニウム	TVF	A120	ポリ容器	492	g	1500	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ガラス瓶	25	g	75	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
塩化モリブデン(V)	CB	G120	ガラス瓶	25	g	25	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
塩化リチウム	CB	G013	ポリ容器	500	g	500	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
塩化ルテニウム	AS-2	G314	ガラス瓶	0.018	kg	0.018	kg	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
塩化ルテニウム(III) 無水	CB	G120	ガラス瓶	5	g	5	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
塩酸（35％）	AS-2	G314	ガラス瓶	0.50	L	0.50	L	○	○	×	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
塩酸（37％）	CB	G013	ガラス瓶	2000	mL	4500	mL	○	○	×	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否

※1 貯蔵施設ごとに保有可能な量又は消防法に基づき許可された危険物の取扱量等による最大保有量を記載

※2 フローに基づき以下の①～⑤の順に該当するか確認し、該当しないものは固定源ではないと判断する。

①日用品等ではない。②ガス又は揮発性の液体である。③多量の放出が想定される。④屋外保管している。⑤有毒化学物質である

建家名略称 MP：分離精製工場 CB：分析所 TVF：ガラス固化技術開発施設 PCDF：プルトニウム転換技術開発施設

ASP：アスファルト固化処理施設 AS-1：アスファルト固化体貯蔵施設 AS-2：第二アスファルト固化体貯蔵施設

2 HASWS：第二高放射性固体廃棄物貯蔵施設 E 施設：第二低放射性廃液蒸発処理施設 Z 施設：第三低放射性廃液蒸発処理施設

C 施設：放出廃液油除去施設 ST：廃溶媒処理技術開発施設 AAF：廃棄物処理場 Kr：クリプトン回収技術開発施設

表-3 敷地内固定源整理表（試薬類）（4/15）

内容量は令和2年9月時点の値

化学物質名称	化学物質の保有状況				固定源の特定											
	保管場所		貯蔵容器等	内容量		最大保有量 ^{※1}		判断基準 ^{※2}					事由	固定源		
	建家	部屋		値	単位	値	単位	①	②	③	④	⑤				
塩酸（62%）	PCDF	W002	ガラス瓶	3.00	L	15.00	L	○	○	×	—	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
塩酸ヒドロキシアミン	AS-2	G314	ガラス瓶	0.50	kg	0.50	kg	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
塩酸ヒドロキシアルミン	CB	G013	ガラス瓶	500	g	4500	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
オキシ塩化ジルコニウム八水和物	CB	G120	ガラス瓶	100	g	200	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
オクタン		屋外少量未満危険物保管箱	ガラス瓶	500	mL	500	mL	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
オクチル(フェニル)[2-オキソ-2-(ジイソブチルアミノ)エチル]ホスフィンオキシド（CMPO）	CB	G013	ガラス瓶	25	g	25	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
過塩素酸	CB	G013	ガラス瓶	500	mL	1000	mL	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ガラス瓶	500	mL	1000	mL	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
過塩素酸マグネシウム	PCDF	A228	ガラス瓶	1725	g	—	—	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
過酸化水素	AS-2	G314	ガラス瓶	1.00	L	1.00	L	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
過酸化水素水	CB	G013	ポリ容器	8500	mL	23500	mL	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ポリ容器	3000	mL	7500	mL	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
過酸化ストロンチウム	CB	G120	ポリ容器	25	g	50	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
活性炭	AS-2	G314	ドラム缶	15.00	kg	15.00	kg	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
カテコール	CB	G013	ガラス瓶	100	g	100	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
カドミウム標準液	AS-2	G314	ポリ瓶	0.10	kg	0.10	kg	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ポリ容器	100	mL	200	mL	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ガドリニウム標準液	AS-2	G314	ポリ瓶	0.10	kg	0.10	kg	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ポリ容器	100	mL	200	mL	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
過マンガン酸カリウム	AS-2	G314	ガラス瓶	0.50	kg	0.50	kg	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G117	—	0	g	1500	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ポリ容器	1500	g	1500	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
カリウム標準液	CB	G120	ポリ容器	100	mL	200	mL	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
過硫酸アンモニウム	CB	G013	ポリ容器	500	g	1000	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
過硫酸カリウム	CB	G013	ポリ容器	8500	g	13000	g	○	○	×	—	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
カルシウム標準液	AS-2	G314	ポリ瓶	0.10	kg	0.10	kg	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ポリ容器	100	mL	200	mL	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
カルバミン酸アンモニウム	CB	G120	ガラス瓶	25	g	50	g	○	○	×	—	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
過レニウム酸アンモニウム	CB	G120	ガラス瓶	1	g	1	g	○	○	×	—	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
	CB	G013	ガラス瓶	12000	g	18000	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
還元鉄	CB	G120	ガラス瓶	1000	g	1500	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	TVF	A120	ポリ容器	674	g	1500	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
含水珪酸マグネシウム（タルク）	ST	G105	ポリ瓶	1600	g	2000	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ギ酸	CB	G120	ガラス瓶	500	mL	500	mL	○	○	×	—	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
キシレノールオレンジ	CB	G120	ガラス瓶	10	g	10	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
キシレン	AS-2	G012	ガラス瓶	1.20	L	2.00	L	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ガラス瓶	4000	mL	5000	mL	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
		屋外少量未満危険物保管箱	ガラス瓶	4000	mL	6000	mL	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	TVF	A120	ガラス瓶	5	L	15	L	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	TVF	A120	ガラス瓶	4.9	L	15.0	L	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
銀触媒活性炭	CB	G013	ビニール袋	3	kg	3	kg	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
銀標準液	CB	G120	ポリ容器	100	mL	200	mL	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ギ酸アンモニウム	CB	G013	ポリ容器	500	g	500	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ケエン酸二アンモニウム	AS-2	G314	ガラス瓶	0.50	kg	1.00	kg	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ケエン酸一水和物	CB	G013	ポリ容器	500	g	500	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ケエン酸三ナトリウム二水和物	CB	G013	ポリ容器	500	g	500	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ケエン酸水素二アンモニウム	CB	G013	ポリ容器	500	g	500	g	○	○	×	—	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
クベロン	CB	G013	ポリ容器	25	g	25	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ポリ容器	100	g	100	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ポリ容器	25	g	75	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
クリフロック凝集剤（PA-318）	AAF	G401	紙袋	1580	g	20000	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
グルコース（ブドウ糖）	TVF	A120	ポリ容器	981	g	—	—	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否

※1 貯蔵施設ごとに保有可能な量又は消防法に基づき許可された危険物の取扱い量等による最大保有量を記載

※2 フローに基づき以下の①～⑤の順に該当するか確認し、該当しないものは固定源ではないと判断する。

①日用品等ではない。②ガス又は揮発性の液体である。③多量の放出が想定される。④屋外保管している。⑤有毒化学物質である

建家名略称 MP：分離精製工場 CB：分析所 TVF：ガラス固化技術開発施設 PCDF：プルトニウム転換技術開発施設

ASP：アスファルト固化処理施設 AS-1：アスファルト固化体貯蔵施設 AS-2：第二アスファルト固化体貯蔵施設

2 HASWS：第二高放射性固体廃棄物貯蔵施設 E 施設：第二低放射性廃液蒸発処理施設 Z 施設：第三低放射性廃液蒸発処理施設

C 施設：放出廃液油除去施設 ST：廃溶媒処理技術開発施設 AAF：廃棄物処理場 Kr：クリプトン回収技術開発施設

表-3 敷地内固定源整理表（試薬類）（5/15）

内容量は令和2年9月時点の値

化学物質名称	化学物質の保有状況				固定源の特定									
	保管場所		貯蔵容器等	内容量		最大保有量 ^{※1}		判断基準 ^{※2}					事由	固定源
	建家	部屋		値	単位	値	単位	①	②	③	④	⑤		
グルコン酸クロロヘキシジン溶液	屋外少量未満危険物保管箱		ガラス瓶	100	mL	100	mL	○	○	×	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
クロム標準液	AS-2	G314	ポリ瓶	0.10	L	0.10	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
クロム酸カリウム	CB	G013	—	0	g	1000	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
クロム標準液	CB	G120	ポリ容器	100	mL	200	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
クロラニル酸	CB	G013	ガラス瓶	25	g	25	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
クロロフォスフォソノIII	CB	G120	ガラス瓶	2	g	2	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ガラス瓶	1	g	2	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
クロロホルム	AS-2	G314	ガラス瓶	0.50	L	3.00	L	○	○	×	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
	CB	G013	ガラス瓶	5000	mL	7500	mL	○	○	×	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
ケイ酸カルシウム	CB	G013	—	0	g	9000	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ケイ素標準液	CB	G120	ポリ容器	100	mL	200	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
コハク酸	CB	G120	ポリ容器	500	g	1000	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
コバルト標準液	CB	G120	ポリ容器	100	mL	200	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
混合標準液（PlasmaCALキレートミックスA, 5% HNO3）	CB	G120	ポリ容器	100	mL	100	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
混合標準液（ICP-MS QC Sample）	CB	G120	ポリ容器	200	mL	200	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ガラス瓶	2000	mL	3000	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
酢酸	屋外少量未満危険物保管箱		ガラス瓶	11000	mL	12000	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ガラス瓶	500	mL	500	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	PCDF	A230	ガラス瓶	4000	mL	4000	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	TVF	A120	ガラス瓶	1	L	5	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ガラス瓶	500	mL	1000	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	AS-2	G012	ガラス瓶	1.00	L	1.00	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
酢酸アンモニウム	AS-2	G314	ガラス瓶	1.00	kg	1.00	kg	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	PCDF	A228	ポリ容器	940	g	—	—	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	TVF	A120	ポリ容器	1000	g	3000	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ポリ容器	2500	g	7500	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ポリ容器	500	g	1500	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
酢酸エチル	TVF	A120	ガラス瓶	3.0	L	5.0	L	○	○	×	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
	CB	G117	ガラス瓶	6000	mL	6000	mL	○	○	×	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
	CB	G120	ガラス瓶	3000	mL	5000	mL	○	○	×	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
	CB	G120	ガラス瓶	10000	mL	18000	mL	○	○	×	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
	屋外少量未満危険物保管箱		ガラス瓶	8000	mL	12000	mL	○	○	×	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
酢酸銀	AS-2	G314	ガラス瓶	0.025	kg	0.025	kg	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
酢酸銅(I)一水和物	CB	G013	ガラス瓶	25	g	50	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
酢酸ナトリウム	AS-2	G314	ガラス瓶	0.50	kg	0.50	kg	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ポリ容器	500	g	500	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ポリ容器	500	g	1000	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
酢酸ナトリウム三水合物	CB	G120	ポリ容器	500	g	1000	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
サマリウム標準液	AS-2	G314	ポリ瓶	0.10	kg	0.10	kg	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ポリ容器	100	mL	200	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
酸化イットリウム	CB	G120	ポリ容器	25	g	50	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
酸化ガドリニウム	PCDF	A227	ガラス瓶	30	g	—	—	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ガラス瓶	25	g	50	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
酸化ガリウム	PCDF	A228	ガラス瓶	225	g	—	—	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	AS-2	G314	ガラス瓶	0.50	kg	0.50	kg	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
酸化カルシウム	CB	G013	ポリ容器	1000	g	1500	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ガラス瓶	25	g	75	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
酸化銀(II)	CB	G013	ガラス瓶	25	g	25	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
酸化サマリウム	CB	G120	ガラス瓶	25	g	50	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
酸化ジスプロシウム	PCDF	A227	ポリ容器	50	g	—	—	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ガラス瓶	5	g	10	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
酸化ジルコニウム	PCDF	A228	ガラス瓶	50	g	—	—	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否

※1 貯蔵施設ごとに保有可能な量又は消防法に基づき許可された危険物の取扱い量等による最大保有量を記載

※2 フローに基づき以下の①～⑤の順に該当するか確認し、該当しないものは固定源ではないと判断する。

①日用品等ではない。②ガス又は揮発性の液体である。③多量の放出が想定される。④屋外保管している。⑤有毒化学物質である

建家名略称 MP：分離精製工場 CB：分析所 TVF：ガラス固化技術開発施設 PCDF：プルトニウム転換技術開発施設

ASP：アスファルト固化処理施設 AS-1：アスファルト固化体貯蔵施設 AS-2：第二アスファルト固化体貯蔵施設

2 HASWS：第二高放射性固体廃棄物貯蔵施設 E 施設：第二低放射性廃液蒸発処理施設 Z 施設：第三低放射性廃液蒸発処理施設

C 施設：放出廃液油除去施設 ST：廃溶媒処理技術開発施設 AAF：廃棄物処理場 Kr：クリプトン回収技術開発施設

表-3 敷地内固定源整理表（試薬類）（6/15）

内容量は令和2年9月時点の値

化学物質名称	化学物質の保有状況				固定源の特定									
	保管場所		貯蔵容器等	内容量		最大保有量 ^{※1}		判断基準 ^{※2}					事由	固定源
	建家	部屋		値	単位	値	単位	①	②	③	④	⑤		
酸化ジルコニウム	CB	G120	ポリ容器	50	g	75	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ポリ容器	500	g	1000	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
酸化水酸化鉄(III)	屋外少量未満危険物保管箱			500	g	500	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
酸化第二鉄	CB	G120	ポリ容器	500	g	1000	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
酸化チタン(IV)アナターゼ型	CB	G120	ポリ容器	50	g	100	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
酸化チタン(IV)ルチル型	CB	G120	ポリ容器	50	g	100	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
酸化銅	AS-2	G314	ガラス瓶	0.50	kg	0.50	kg	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ガラス瓶	500	g	800	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
酸化ニッケル(I)	CB	G120	ポリ容器	100	g	200	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ポリ容器	500	g	1000	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ガラス瓶	75	g	75	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
酸化ネオジム	CB	G120	ガラス瓶	25	g	50	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ガラス瓶	1	g	2	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
酸化パラジウム	CB	G120	ポリ容器	50	g	75	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ガラス瓶	1	g	2	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
酸化バリウム	CB	G120	ガラス瓶	500	g	1000	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
酸化プラセオジム	CB	G120	ポリ容器	25	g	50	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
酸化マンガン	CB	G120	ポリ容器	200	g	400	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
酸化モリブデン(VI)	CB	G120	ガラス瓶	25	g	50	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
酸化ランタン	CB	G120	ポリ容器	25	g	50	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
酸化硫酸バナジウム(IV)n水和物	CB	G120	ガラス瓶	150	g	150	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ガラス瓶	150	g	225	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
酸化ルテチウム	CB	G120	ガラス瓶	5	g	10	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
酸化ルテニウム(IV)	CB	G120	ガラス瓶	1	g	2	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
酸化ロジウム(III)	CB	G120	ガラス瓶	2	g	3	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
次亜塩素酸ナトリウム	CB	G013	ガラス瓶	2000	g	3000	g	○	×	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
次亜塩素酸ナトリウム溶液	屋外少量未満危険物保管箱			5000	mL	5000	mL	○	×	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
ジアミノプロピオン酸塩	AS-2	G314	ガラス瓶	0.015	kg	0.015	kg	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
シアン化第一金	CB	G122	ポリ容器	1	g	1	g	○	×	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
	CB	G122	ポリ容器	1	g	1	g	○	×	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
	CB	G122	ポリ容器	1	g	1	g	○	×	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
	CB	G122	ポリ容器	1	g	1	g	○	×	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
ジソデシルホスフェート(DP-10R)	AS-2	G012	ガラス瓶	0.30	L	1.00	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ジエチルジチオカルバミン酸銀	AS-2	G314	ガラス瓶	0.025	kg	0.025	kg	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ジエチレントリアミン五酢酸	CB	G013	ガラス瓶	500	g	500	g	○	×	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
四塩化炭素	AAF	G401	ガラス瓶	3	L	3	L	○	×	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
	CB	G013	ガラス瓶	5500	mL	17500	mL	○	×	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
	CB	G013	ガラス瓶	10500	mL	19500	mL	○	×	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
四塩化炭素(OCB標準溶液)	AS-2	G314	ガラス瓶	1.30	L	1.30	L	○	×	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
四塩化炭素(OCB混合標準物質)	CB	G120	ガラス瓶	10	mL	10	mL	○	×	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
シクロヘキサジアン四酢酸一水和物	CB	G013	ガラス瓶	25	g	25	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ジシアノ金(I)酸カリウム	CB	G122	ガラス瓶	0.4	g	1	g	○	×	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
ジスプロシウム標準液	CB	G120	ポリ容器	100	mL	200	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ジニトロフェノール	CB	G122	ガラス瓶	25	g	25	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ガラス瓶	15	g	25	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ジフェニルアミン-4-スルホン酸ナトリウム	CB	G013	ガラス瓶	1625	g	2525	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ガラス瓶	175	g	275	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ジベンゾ-18-クラウン6-エーテル	CB	G120	ガラス瓶	25	g	40	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ジベンゾイルメタン(DBM)	AS-2	G314	ガラス瓶	0.10	kg	0.10	kg	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	TVF	A120	ガラス瓶	153	g	200	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ガラス瓶	1050	g	1575	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ガラス瓶	5500	g	9000	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否

※1 貯蔵施設ごとに保有可能な量又は消防法に基づき許可された危険物の取扱い量等による最大保有量を記載

※2 フローに基づき以下の①～⑤の順に該当するか確認し、該当しないものは固定源ではないと判断する。

①日用品等ではない。②ガス又は揮発性の液体である。③多量の放出が想定される。④屋外保管している。⑤有毒化学物質である

建家名略称 MP：分離精製工場 CB：分析所 TVF：ガラス固化技術開発施設 PCDF：プルトニウム転換技術開発施設

ASP：アスファルト固化処理施設 AS-1：アスファルト固化体貯蔵施設 AS-2：第二アスファルト固化体貯蔵施設

2 HASWS：第二高放射性固体廃棄物貯蔵施設 E施設：第二低放射性廃液蒸発処理施設 Z施設：第三低放射性廃液蒸発処理施設

C施設：放出廃液油除去施設 ST：廃溶媒処理技術開発施設 AAF：廃棄物処理場 Kr：クリプトン回収技術開発施設

表-3 敷地内固定源整理表（試薬類）（7/15）

内容量は令和2年9月時点の値

化学物質名称	化学物質の保有状況				固定源の特定									
	保管場所		貯蔵容器等	内容量		最大保有量 ^{※1}		判断基準 ^{※2}					事由	固定源
	建家	部屋		値	単位	値	単位	①	②	③	④	⑤		
ジベンゾイルメタン(DBM)	CB	G120	ガラス瓶	1000	g	1500	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
臭化n-ヘキサデシルトリメチルアンモニウム	CB	G013	ガラス瓶	250	g	500	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ポリ容器	100	g	200	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
臭化テトラ-n-ヘキシルアンモニウム	CB	G120	ガラス瓶	25	g	50	g	○	○	×	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
重クロム酸カリウム	CB	G013	ポリ容器	1000	g	1500	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ポリ容器	50	g	100	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
シュウ酸アンモニウム	AS-2	G314	ガラス瓶	0.49	kg	0.50	kg	○	○	×	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
シュウ酸溶液	AS-2	G314	ポリ瓶	0.50	L	1.00	L	○	○	×	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
臭素	AS-2	G314	ガラス瓶	0.025	kg	0.025	kg	○	○	×	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
	TVF	A120	ガラス瓶	625	g	1000	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
シュウ酸	CB	G013	ポリ容器	2000	g	10000	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
シュウ酸アンモニウム	CB	G120	ポリ容器	1000	g	1500	g	○	○	×	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
シュウ酸アンモニウム-水和物	CB	G013	ポリ容器	8500	g	25000	g	○	○	×	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
シュウ酸ナトリウム	CB	G013	ポリ容器	9000	g	11500	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ガラス瓶	100	g	600	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ポリ容器	500	g	2500	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
シュウ酸二水和物	TVF	A120	ポリ容器	425	g	1000	g	○	○	×	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
	CB	G013	ポリ容器	500	g	500	g	○	○	×	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
	CB	G013	ポリ容器	1000	g	5500	g	○	○	×	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
	CB	G120	ポリ容器	50	g	75	g	○	○	×	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
酒石酸	AS-2	G314	ガラス瓶	0.50	kg	0.50	kg	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
酒石酸アンチモンカリウム	CB	G013	ガラス瓶	100	g	150	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
酒石酸アンモニウム	CB	G013	ポリ容器	500	g	500	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
酒石酸ナトリウム	AS-2	G314	ガラス瓶	1.00	kg	1.00	kg	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硝酸（60%）	PCDF	A232	ガラス瓶	7500	mL	—	—	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	TVF	A120	ガラス瓶	7.9	L	36.0	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ガラス瓶	14500	mL	125000	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ガラス瓶	6500	mL	18000	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硝酸（62%）	PCDF	W002	ガラス瓶	0.00	L	5.00	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	PCDF	A128	ガラス瓶	6.50	L	10.00	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	PCDF	A029	ガラス瓶	17.00	L	30.00	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硝酸（69%）	AS-2	G314	ガラス瓶	1.70	L	2.00	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硝酸0.1mol/L標準溶液	CB	G013	ガラス瓶	8500	mL	20000	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硝酸0.2mol/L標準溶液	CB	G013	ガラス瓶	500	mL	20000	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硝酸1mol/L標準溶液	CB	G013	ガラス瓶	5500	mL	5500	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硝酸60-61% UGR	CB	G013	ガラス瓶	21500	mL	21500	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硝酸アルミニウム	CB	G013	ポリ容器	9500	g	10000	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ポリ容器	1000	g	1500	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硝酸アンモニウム	AS-2	G314	ガラス瓶	0.50	kg	0.50	kg	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ポリ容器	500	g	20500	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硝酸イットリウム	CB	G120	ガラス瓶	100	g	250	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硝酸イットリウムn水和物	CB	G013	ガラス瓶	50	g	50	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硝酸イットリウム六水和物	AS-2	G314	ガラス瓶	0.025	kg	0.025	kg	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ガラス瓶	25	g	25	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硝酸カドミウム四水和物	TVF	A120	ガラス瓶	650	g	700	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硝酸ガドリニウム	CB	G013	ガラス瓶	25	g	25	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ポリ容器	500	g	1000	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硝酸ガドリニウム六水和物	MP	C643	ドラム缶	200.00	L	—	—	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ガラス瓶	50	g	75	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ガラス瓶	25	g	25	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硝酸カリウム	PCDF	A232	ガラス瓶	18	g	—	—	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ポリ容器	500	g	500	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否

※1 貯蔵施設ごとに保有可能な量又は消防法に基づき許可された危険物の取扱い量等による最大保有量を記載

※2 フローに基づき以下の①～⑤の順に該当するか確認し、該当しないものは固定源ではないと判断する。

①日用品等ではない。②ガス又は揮発性の液体である。③多量の放出が想定される。④屋外保管している。⑤有毒化学物質である
 建家名略称 MP：分離精製工場 CB：分析所 TVF：ガラス固化技術開発施設 PCDF：プルトニウム転換技術開発施設
 ASP：アスファルト固化処理施設 AS-1：アスファルト固化体貯蔵施設 AS-2：第二アスファルト固化体貯蔵施設
 2 HASWS：第二高放射性固体廃棄物貯蔵施設 E 施設：第二低放射性廃液蒸発処理施設 Z 施設：第三低放射性廃液蒸発処理施設
 C 施設：放出廃液油除去施設 ST：廃溶媒処理技術開発施設 AAF：廃棄物処理場 Kr：クリプトン回収技術開発施設

表-3 敷地内固定源整理表（試薬類）（8/15）

内容量は令和2年9月時点の値

化学物質名称	化学物質の保有状況				固定源の特定											
	保管場所		貯蔵容器等	内容量		最大保有量 ^{※1}		判断基準 ^{※2}					事由	固定源		
	建家	部屋		値	単位	値	単位	①	②	③	④	⑤				
硝酸カリウム	PCDF	A227	ポリ容器	489	g	—	—	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硝酸カルシウム	AAF	G401	紙袋	96000	g	300000	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硝酸カルシウム四水和物	CB	G013	ポリ容器	500	g	500	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硝酸銀	AS-2	G314	ポリ瓶	18.149	kg	18.149	kg	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	TVF	A120	ガラス瓶	1.998	g	2.000	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G117	ポリ容器	1000	g	1500	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ポリ容器	25	g	25	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硝酸クロム(II)九水和物	CB	G120	ガラス瓶	50	g	75	g	○	×	—	—	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
	CB	G120	ガラス瓶	25	g	25	g	○	×	—	—	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
硝酸コバルト	AS-2	G314	ガラス瓶	0.05	kg	0.05	kg	○	×	—	—	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
硝酸コバルト(I)六水和物	CB	G013	ガラス瓶	25	g	25	g	○	×	—	—	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
硝酸サマリウム(III)六水和物	CB	G120	ガラス瓶	25	g	25	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ガラス瓶	1	g	2	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ガラス瓶	25	g	50	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硝酸酸化ジルコニウム二水和物	CB	G120	ガラス瓶	25	g	25	g	○	×	—	—	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
硝酸ジルコニウム二水和物	CB	G120	ポリ容器	50	g	75	g	○	×	—	—	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
硝酸ストロンチウム	AS-2	G314	ガラス瓶	0.50	kg	0.50	kg	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	AAF	G401	紙袋	92000	g	150000	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ポリ容器	500	g	25000	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ガラス瓶	2500	g	4000	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ガラス瓶	25	g	25	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硝酸セシウム	TVF	A120	ポリ容器	1425	g	2000	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	AS-2	G314	ガラス瓶	0.075	kg	0.10	kg	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ポリ容器	25	g	50	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ポリ容器	50	g	50	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ポリ容器	500	g	1000	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ガラス瓶	25	g	25	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硝酸セリウム(III)六水和物	AS-2	G314	ガラス瓶	0.125	kg	0.125	kg	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ポリ容器	3000	g	8500	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硝酸第一セリウム(II)六水和物	CB	G120	ポリ容器	50	g	50	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硝酸第一タリウム	AS-2	G314	ガラス瓶	0.50	kg	0.50	kg	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硝酸第二アンモニウムセリウム	CB	G120	ポリ容器	500	g	2000	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硝酸第二鉄	AAF	G401	紙袋	38600	g	500000	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硝酸鉄(III)九水和物	AS-2	G314	ガラス瓶	1.997	kg	2.00	kg	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	TVF	A120	ポリ容器	950	g	1500	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ガラス瓶	2000	g	4000	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ガラス瓶	3500	g	5500	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硝酸銅(II)三水和物	CB	G120	ポリ容器	25	g	25	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硝酸ナトリウム	AS-2	G314	ガラス瓶	0.352	kg	0.575	kg	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ポリ容器	3500	g	15000	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ポリ容器	2500	g	2500	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ポリ容器	500	g	1500	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ポリ容器	1000	g	1000	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硝酸ナトリウム水溶液	PCDF	A228	ポリ容器	398	g	—	—	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硝酸二アンモニウム(IV)	TVF	A123	ポリ容器	378.00	L	720.00	L	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硝酸二アンモニウムセリウム(IV)	PCDF	A228	ポリ容器	580	g	—	—	○	×	—	—	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
	CB	G013	ポリ容器	6500	g	10000	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硝酸ニッケル(I)六水和物	TVF	A120	ポリ容器	928	g	1500	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硝酸ネオジム六水和物	CB	G120	ガラス瓶	25	g	25	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ガラス瓶	125	g	200	g	○	×	—	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否

※1 貯蔵施設ごとに保有可能な量又は消防法に基づき許可された危険物の取扱量等による最大保有量を記載

※2 フローに基づき以下の①～⑤の順に該当するか確認し、該当しないものは固定源ではないと判断する。

①日用品等ではない。②ガス又は揮発性の液体である。③多量の放出が想定される。④屋外保管している。⑤有毒化学物質である

建家名略称 MP：分離精製工場 CB：分析所 TVF：ガラス固化技術開発施設 PCDF：プルトニウム転換技術開発施設

ASP：アスファルト固化処理施設 AS-1：アスファルト固化体貯蔵施設 AS-2：第二アスファルト固化体貯蔵施設

2 HASWS：第二高放射性固体廃棄物貯蔵施設 E 施設：第二低放射性廃液蒸発処理施設 Z 施設：第三低放射性廃液蒸発処理施設

C 施設：放出廃液油除去施設 ST：廃溶媒処理技術開発施設 AAF：廃棄物処理場 Kr：クリプトン回収技術開発施設

表-3 敷地内固定源整理表（試薬類）（9/15）

内容量は令和2年9月時点の値

化学物質名称	化学物質の保有状況				固定源の特定									
	保管場所		貯蔵容器等	内容量		最大保有量 ^{※1}		判断基準 ^{※2}					事由	固定源
	建家	部屋		値	単位	値	単位	①	②	③	④	⑤		
硝酸バラジウム	CB	G120	ガラス瓶	5	g	8	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ガラス瓶	25	g	50	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ガラス瓶	3	g	3	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硝酸バリウム	AS-2	G314	ガラス瓶	18.00	kg	18.00	kg	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ガラス瓶	1000	g	4000	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ガラス瓶	25	g	25	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硝酸ヒドロキシルアミン	CB	G013	ガラス瓶	500	mL	1000	mL	○	○	×	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
硝酸ブラセオジム	CB	G120	ポリ容器	5	g	10	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硝酸マグネシウム	AS-2	G314	ガラス瓶	0.50	kg	0.50	kg	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ポリ容器	1000	g	1500	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硝酸マグネシウム六水和物	TVF	A120	ポリ容器	1312	g	2000	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硝酸マンガン(II)六水和物	CB	G013	ガラス瓶	25	g	25	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硝酸ユーロピウム	CB	G120	ポリ容器	5	g	10	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硝酸ユーロピウム(III)六水和物	CB	G013	ガラス瓶	25	g	25	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硝酸ランタン	CB	G013	ガラス瓶	25	g	50	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ポリ容器	25	g	50	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硝酸ランタン六水和物	CB	G120	ガラス瓶	25	g	25	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硝酸ルテニウム溶液	CB	G120	ポリ容器	50	g	100	g	○	○	×	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
硝酸ルビジウム	CB	G120	ポリ容器	10	g	15	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硝酸ロジウム(II)	CB	G013	ガラス瓶	1	g	1	g	○	○	×	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
硝酸鉛(II)	CB	G013	ガラス瓶	25	g	25	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ジョードベンゼン	AS-2	G314	ガラス瓶	0.005	kg	0.10	kg	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ジルコニウム	AS-2	G314	ガラス瓶	0.05	kg	0.05	kg	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ガラス瓶	50	g	100	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ジルコニウム標準液	AS-2	G314	ポリ瓶	0.10	kg	0.10	kg	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
CB	G120	ポリ容器	100	mL	200	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否	
シンチレーションカクテル (Aquasol-2)	AS-2	G012	ガラス瓶	10.00	L	10.00	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
シンチレーションカクテル (Insta-Gel Plus)	CB	G316	ポリ容器	6.0	L	40.0	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
シンチレーションカクテル (Insta-Gel Plus)	TVF	G141	ポリ容器	4.0	L	10.0	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
シンチレーションカクテル (Insta-Gel Plus)	TVF	A213	ポリ容器	12.8	L	30.0	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
シンチレーションカクテル (Opti-Fluor)	屋外少量未満危険物保管箱	ポリ容器	10	L	10	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否	
シンチレーションカクテル (Pico-Fluor)	AS-2	G012	ガラス瓶	2.50	kg	2.50	kg	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
シンチレーションカクテル (Ultima Flo M)	屋外少量未満危険物保管箱	ポリ容器	10	L	10	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否	
シンチレーションカクテル (Ultima Gold AB)	屋外少量未満危険物保管箱	ポリ容器	10	L	10	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否	
シンチレーションカクテル (バーマフロー)	AS-2	G012	ガラス瓶	1.70	L	2.00	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
水銀	CB	G122	ガラス瓶	500	g	500	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
水酸化カリウム	CB	G120	ポリ容器	500	g	1000	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
水酸化カルシウム	AS-2	G314	ガラス瓶	400	kg	0.50	kg	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ポリ容器	1500	g	2500	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	TVF	A120	ガラス瓶	1334	g	1500	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
水酸化ストロンチウム	CB	G120	ポリ容器	500	g	1000	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
水酸化テトラブチルアンモニウム	AS-2	G012	ガラス瓶	600	L	0.60	L	○	○	×	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
水酸化ナトリウム（苛性ソーダ）	PCDF	A232	ポリ容器	1900	g	—	—	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	AS-2	G314	ガラス瓶	2,538	kg	2,538	kg	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	PCDF	A232	ポリ容器	7499	g	—	—	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	TVF	A120	ポリ容器	5680	g	9000	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	PCDF	W002	ポリ容器	6.00	kg	15.00	kg	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	PCDF	A022	ポリ容器	0.00	kg	450.00	kg	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ポリ容器	1000	g	1500	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ポリ容器	500	g	500	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ポリ容器	8000	g	16000	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否

※1 貯蔵施設ごとに保有可能な量又は消防法に基づき許可された危険物の取扱い量等による最大保有量を記載

※2 フローに基づき以下の①～⑤の順に該当するか確認し、該当しないものは固定源ではないと判断する。

①日用品等ではない。②ガス又は揮発性の液体である。③多量の放出が想定される。④屋外保管している。⑤有毒化学物質である

建家名略称 MP：分離精製工場 CB：分析所 TVF：ガラス固化技術開発施設 PCDF：プルトニウム転換技術開発施設

ASP：アスファルト固化処理施設 AS-1：アスファルト固化体貯蔵施設 AS-2：第二アスファルト固化体貯蔵施設

2 HASWS：第二高放射性固体廃棄物貯蔵施設 E 施設：第二低放射性廃液蒸発処理施設 Z 施設：第三低放射性廃液蒸発処理施設

C 施設：放出廃液油除去施設 ST：廃溶媒処理技術開発施設 AAF：廃棄物処理場 Kr：クリプトン回収技術開発施設

表-3 敷地内固定源整理表（試薬類）（10/15）

内容量は令和2年9月時点の値

化学物質名称	化学物質の保有状況				固定源の特定										
	保管場所		貯蔵容器等	内容量		最大保有量 ^{※1}		判断基準 ^{※2}					事由	固定源	
	建家	部屋		値	単位	値	単位	①	②	③	④	⑤			
水酸化ナトリウム溶液	CB	G013	ポリ容器	11000	mL	44500	mL	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
水酸化バリウム	AS-2	G314	ガラス瓶	780.755	kg	780.755	kg	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
水酸化バリウム八水和物	CB	G013	ポリ容器	500	g	1000	g	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
スカンジウム標準液	CB	G120	ポリ容器	100	mL	200	mL	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
すず標準液	AS-2	G314	ポリ瓶	0.10	L	0.10	L	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ポリ容器	100	mL	200	mL	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ストロンチウム標準液	AS-2	G314	ポリ瓶	0.30	kg	0.30	kg	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ポリ容器	100	mL	200	mL	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
スルファニルアミド	CB	G013	ガラス瓶	4000	g	7500	g	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	AS-2	G314	ガラス瓶	1.00	kg	1.00	kg	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ガラス瓶	1000	g	4000	g	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
スルファミン酸（アミド硫酸）	CB	G013	ポリ容器	7500	g	14500	g	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ガラス瓶	25	g	75	g	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ポリ容器	1000	g	1500	g	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
セシウム標準液	AS-2	G314	ポリ瓶	0.10	kg	0.10	kg	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ポリ容器	100	mL	200	mL	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
セリウム標準液	AS-2	G314	ポリ瓶	0.10	kg	0.10	kg	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ポリ容器	100	mL	200	mL	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
セレン標準液	AS-2	G314	ポリ瓶	100.00	g	100.00	g	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ポリ容器	100	mL	200	mL	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G122	ポリ容器	60	mL	100	mL	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
タングステン酸ナトリウム	PCDF	A227	ポリ容器	973	g	—	—	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
タングステン標準液	CB	G120	ポリ容器	100	mL	200	mL	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
炭酸亜鉛	CB	G013	ビニール袋	—	—	—	—	○	○	×	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
炭酸アンモニウム	AS-2	G314	ガラス瓶	0.50	kg	0.50	kg	○	○	×	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
	CB	G013	ポリ容器	13000	g	22000	g	○	○	×	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
	TVF	A120	ポリ容器	830	g	1000	g	○	○	×	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
炭酸カリウム	TVF	A120	ポリ容器	1112	g	1500	g	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ポリ容器	14000	g	22000	g	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
炭酸カルシウム	AS-2	G314	ガラス瓶	0.50	kg	0.50	kg	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
炭酸水素ナトリウム	AS-2	G314	ポリ瓶	1.025	kg	1.025	kg	○	○	×	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
	PCDF	A228	ポリ容器	166	g	—	—	○	○	×	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
	CB	G013	ポリ容器	5500	g	11500	g	○	○	×	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
	CB	G013	ガラス瓶	25	g	25	g	○	○	×	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
炭酸ナトリウム	AS-2	G314	ガラス瓶	2.575	kg	3.00	kg	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ガラス瓶	50	g	100	g	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ポリ容器	1000	g	1500	g	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ガラス瓶	25	g	25	g	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ガラス瓶	2	g	3	g	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ポリ容器	10500	g	13500	g	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	PCDF	A228	ポリ容器	516	g	—	—	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
炭酸ナトリウム十水和物	TVF	A120	ガラス瓶	200	g	200	g	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	TVF	A120	ポリ容器	2700	g	3000	g	○	○	×	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
炭酸ヒドロラジ	CB	G013	ポリ容器	4500	g	7000	g	○	○	×	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
	AS-2	G314	ガラス瓶	0.50	L	1.00	L	○	○	×	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
炭酸マグネシウム	AS-2	G314	ガラス瓶	0.50	kg	0.50	kg	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
タンタル標準液	CB	G122	ポリ容器	70	mL	100	mL	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G122	ポリ容器	100	mL	100	mL	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
チオ硫酸ナトリウム	AS-2	G314	ガラス瓶	0.40	kg	1.00	kg	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
チタン標準液	CB	G120	ポリ容器	100	mL	200	mL	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
窒化ホウ素	CB	G120	ガラス瓶	20	g	30	g	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
チモールブルー	AS-2	G314	ガラス瓶	0.025	kg	0.025	kg	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否

※1 貯蔵施設ごとに保有可能な量又は消防法に基づき許可された危険物の取扱い量等による最大保有量を記載

※2 フローに基づき以下の①～⑤の順に該当するか確認し、該当しないものは固定源ではないと判断する。

①日用品等ではない。②ガス又は揮発性の液体である。③多量の放出が想定される。④屋外保管している。⑤有毒化学物質である

建家名略称 MP：分離精製工場 CB：分析所 TVF：ガラス固化技術開発施設 PCDF：プルトニウム転換技術開発施設

ASP：アスファルト固化処理施設 AS-1：アスファルト固化体貯蔵施設 AS-2：第二アスファルト固化体貯蔵施設

2 HASWS：第二高放射性固体廃棄物貯蔵施設 E 施設：第二低放射性廃液蒸発処理施設 Z 施設：第三低放射性廃液蒸発処理施設

C 施設：放出廃液油除去施設 ST：廃溶媒処理技術開発施設 AAF：廃棄物処理場 Kr：クリプトン回収技術開発施設

表-3 敷地内固定源整理表（試薬類）（11/15）

内容量は令和2年9月時点の値

化学物質名称	化学物質の保有状況				固定源の特定									
	保管場所		貯蔵容器等	内容量		最大保有量 ^{※1}		判断基準 ^{※2}					事由	固定源
	建家	部屋		値	単位	値	単位	①	②	③	④	⑤		
チモールブルー	CB	G120	ガラス瓶	50	g	75	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
中性無水芒硝	AS-2	G314	ドラム缶	30.00	kg	30.00	kg	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ツリウム標準液	CB	G120	ポリ容器	100	mL	200	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
デカン	AS-2	G012	ガラス瓶	0.25	L	0.25	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
鉄標準液	AS-2	G314	ポリ瓶	0.20	kg	0.20	kg	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
鉄標準液	CB	G120	ポリ容器	100	mL	200	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
テトラクロロエチレン	ASP	A314	18リットル缶	200.00	L	200.00	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
テトラメチルアンモニウムヒドロキシド	AS-2	G314、R053	ガラス瓶	30.00	L	30.00	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
テトラメチルアンモニウムヒドロキシド	CB	G122	ポリ容器	500	mL	500	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
テノイルトリフルオロアセトン (TTA)	AS-2	G314	ガラス瓶	0.025	kg	0.25	kg	○	×	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
	CB	G013	ガラス瓶	4000	g	8500	g	○	×	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
	CB	G120	ガラス瓶	500	g	2500	g	○	×	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
	TVF	A120	ガラス瓶	333	g	1050	g	○	×	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
テルビウム標準液	CB	G120	ポリ容器	100	mL	200	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
テルル標準液	CB	G120	ポリ容器	100	mL	200	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
デンブン	CB	G120	ポリ容器	500	g	1000	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
銅	PCDF	A230	ガラス瓶	600	g	—	—	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
銅標準液	CB	G120	ポリ容器	100	mL	200	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
灯油	IF	A403	—	0	L	10	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
灯油	車庫	—	ペール缶	8	L	34	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ドデカン	CB	G120	ガラス瓶	2500	mL	2500	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	屋外少量未満危険物保管箱	—	ガラス瓶	12000	mL	12000	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ドデカン	AS-2	G012	ガラス瓶	0.10	L	1.00	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ドデシル硫酸ナトリウム	CB	G120	ポリ容器	50	g	75	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
トリ-n-オクチルホスフィンオキシド (TOPO)	AS-2	G314	ガラス瓶	0.075	kg	0.075	kg	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ガラス瓶	400	g	1100	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ガラス瓶	600	g	1100	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	TVF	A120	ガラス瓶	236	g	550	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
トリ-n-ドデシルアミン	CB	G013	ガラス瓶	20	g	30	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
トリエチレンジアミン	AS-2	G314	ガラス瓶	0.025	kg	0.025	kg	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
トリオクチルメチルアンモニウムクロリド	屋外少量未満危険物保管箱	—	ガラス瓶	250	mL	250	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
トリクロロエチレン	AS-2	G314	ガラス瓶	0.40	L	3.00	L	○	×	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
トリデカン	屋外少量未満危険物保管箱	—	ガラス瓶	25	mL	25	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	AS-2	G012	ガラス瓶	0.05	L	0.05	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
トリフルオロ酢酸	CB	G120	ガラス瓶	25	mL	50	mL	○	×	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
トルエン	AS-2	G012	ガラス瓶	3.697	L	4.00	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	屋外少量未満危険物保管箱	—	ガラス瓶	1500	mL	1500	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ナトリウム標準液	CB	G120	ポリ容器	100	mL	200	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ナフタレン	CB	G013	ポリ容器	1000	g	1000	g	○	×	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
鉛標準液	CB	G120	ポリ容器	100	mL	200	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ニオブ	AS-2	G314	ガラス瓶	0.025	kg	0.025	kg	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ニッケル	CB	G013	ガラス瓶	25	g	50	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ニッケル標準液	AS-2	G314	ポリ瓶	0.10	kg	0.10	kg	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ポリ容器	100	mL	200	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
乳酸	CB	G013	ガラス瓶	9000	mL	13500	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
乳酸銀	AS-2	G314	ガラス瓶	0.025	kg	0.025	kg	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
尿素	CB	G013	ポリ容器	500	g	500	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
二硫化モリブデン（第一石油類）	ASP	A314	スプレー缶	0.78	L	2.00	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ネオジム標準液	CB	G120	ポリ容器	100	mL	200	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
白金標準液	CB	G120	ポリ容器	100	mL	200	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
バナジウム標準液	CB	G120	ポリ容器	100	mL	200	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
パラジウム標準液	CB	G120	ポリ容器	100	mL	200	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否

※1 貯蔵施設ごとに保有可能な量又は消防法に基づき許可された危険物の取扱い量等による最大保有量を記載

※2 フローに基づき以下の①～⑤の順に該当するか確認し、該当しないものは固定源ではないと判断する。

①日用品等ではない。②ガス又は揮発性の液体である。③多量の放出が想定される。④屋外保管している。⑤有毒化学物質である

建家名略称 MP：分離精製工場 CB：分析所 TVF：ガラス固化技術開発施設 PCDF：プルトニウム転換技術開発施設

ASP：アスファルト固化処理施設 AS-1：アスファルト固化体貯蔵施設 AS-2：第二アスファルト固化体貯蔵施設

2 HASWS：第二高放射性固体廃棄物貯蔵施設 E 施設：第二低放射性廃液蒸発処理施設 Z 施設：第三低放射性廃液蒸発処理施設

C 施設：放出廃液油除去施設 ST：廃溶媒処理技術開発施設 AAF：廃棄物処理場 Kr：クリプトン回収技術開発施設

表-3 敷地内固定源整理表（試薬類）（12/15）

内容量は令和2年9月時点の値

化学物質名称	化学物質の保有状況				固定源の特定										
	保管場所		貯蔵容器等	内容量		最大保有量 ^{※1}		判断基準 ^{※2}					事由	固定源	
	建家	部屋		値	単位	値	単位	①	②	③	④	⑤			
バリウム標準液	CB	G120	ポリ容器	100	mL	200	mL	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
汎用混合標準液 (XSTC-13, 5% HNO_3)	CB	G122	ポリ容器	50	mL	100	mL	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
汎用混合標準液 (XSTC-13, 5% HNO_3)	CB	G122	ポリ容器	20	mL	100	mL	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
汎用混合標準液 (XSTC-13, 5% HNO_3)	CB	G122	ポリ容器	100	mL	100	mL	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
汎用混合標準液 (XSTC-331, 2% HNO_3)	CB	G122	ポリ容器	100	mL	100	mL	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
汎用混合標準液 (XSTC-622, 5% HNO_3)	CB	G122	ポリ容器	100	mL	100	mL	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
汎用混合標準液 (XSTC-8, H_2O)	CB	G122	ポリ容器	40	mL	100	mL	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
汎用混合標準液 (XSTC-8, H_2O)	CB	G122	ポリ容器	100	mL	100	mL	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ビクトリアブルーB	屋外少量未満危険物保管箱		ポリ容器	25	g	25	g	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ビスホスフェート (DP-8R)	AS-2	G012	ガラス瓶	0.30	L	1.00	L	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	AS-2	G314	ポリ瓶	0.10	kg	0.10	kg	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ビスマス標準液	CB	G120	ポリ容器	100	mL	200	mL	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ガラス瓶	2500	mL	2500	mL	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ヒドランジーナ水和物	屋外少量未満危険物保管箱		ガラス瓶	4500	mL	6000	mL	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	AS-2	G012	ガラス瓶	0.60	L	0.60	L	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ヒドロキノン	AS-2	G314	ガラス瓶	0.025	kg	0.025	kg	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ガラス瓶	7500	mL	7500	mL	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G123	ガラス瓶	17000	mL	18000	mL	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ピリジン	屋外少量未満危険物保管箱		ガラス瓶	10000	mL	12000	mL	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	TVF	A120	ガラス瓶	1	L	5	L	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	AS-2	G012	ガラス瓶	0.50	L	0.50	L	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ピロ硫酸カルウム	CB	G013	ポリ容器	3000	g	4500	g	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	AS-2	G314	ポリ瓶	0.10	kg	0.10	kg	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ガラス瓶	75	g	125	g	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ポリ容器	1500	g	2500	g	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
フェノールフタレイン	CB	G120	ポリ容器	500	g	1000	g	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ガラス瓶	25	g	50	g	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	PCDF	A230	ガラス瓶	93	g	—	—	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	TVF	A120	ポリ容器	1595	g	2000	g	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
フェリシアン化カルウム	CB	G120	ポリ容器	500	g	1000	g	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ポリ容器	500	g	500	g	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
フェロシアン酸カルウム	AS-2	G314	ドラム缶	840.00	kg	840.00	kg	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ポリ容器	500	g	1000	g	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ブタノール	CB	G120	ガラス瓶	1000	mL	1000	mL	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
アタル酸	LWTF	A325	ガラス瓶	0.5	L	20	L	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	PCDF	A323	缶	5.00	L	10.00	L	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
アタル酸ジ (2-エチルヘキシル)	IF	A305	ガラス瓶	4	L	10	L	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	MP	G643	ガラス瓶	0.50	L	—	—	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
アタル酸水素カルウム	AS-2	G314	ガラス瓶	0.025	kg	0.025	kg	○	×	—	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
アタル酸ナトリウム	AS-2	G314	ポリ瓶	2.00	kg	2.00	kg	○	×	—	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
アタル酸水素カルウム	CB	G013	ポリ容器	25	g	25	g	○	×	—	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
	CB	G013	ポリ容器	4500	g	6000	g	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
フッ化カルウム	CB	G120	ポリ容器	500	g	1500	g	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	PCDF	A228	ポリ容器	500	g	—	—	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
フッ化水素	AS-2	G314	ポリ瓶	1167.33	g	1167.33	g	○	×	—	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
	PCDF	A232	ポリ容器	446	g	—	—	○	×	—	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
	TVF	A120	ポリ容器	2.958	g	3.000	g	○	×	—	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
フッ化リチウム	PCDF	A227	ポリ容器	500	g	—	—	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
フッ化ナトリウム	CB	G013	ポリ容器	6500	g	10000	g	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
フッ化水素アンモニウム	CB	G013	ポリ容器	500	g	1000	g	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
フッ化水素酸	CB	G122	ポリ容器	500	g	500	g	○	×	—	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
ブトキシエタノール	CB	G120	ガラス瓶	500	mL	2500	mL	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否

※1 貯蔵施設ごとに保有可能な量又は消防法に基づき許可された危険物の取扱い量等による最大保有量を記載

※2 フローに基づき以下の①～⑤の順に該当するか確認し、該当しないものは固定源ではないと判断する。

①日用品等ではない。②ガス又は揮発性の液体である。③多量の放出が想定される。④屋外保管している。⑤有毒化学物質である

建家名略称 MP：分離精製工場 CB：分析所 TVF：ガラス固化技術開発施設 PCDF：プルトニウム転換技術開発施設

ASP：アスファルト固化処理施設 AS-1：アスファルト固化体貯蔵施設 AS-2：第二アスファルト固化体貯蔵施設

2 HASWS：第二高放射性固体廃棄物貯蔵施設 E 施設：第二低放射性廃液蒸発処理施設 Z 施設：第三低放射性廃液蒸発処理施設

C 施設：放出廃液油除去施設 ST：廃溶媒処理技術開発施設 AAF：廃棄物処理場 Kr：クリプトン回収技術開発施設

表-3 敷地内固定源整理表（試薬類）（13/15）

内容量は令和2年9月時点の値

化学物質名称	化学物質の保有状況				固定源の特定										
	保管場所		貯蔵容器等	内容量		最大保有量 ^{※1}		判断基準 ^{※2}					事由	固定源	
	建家	部屋		値	単位	値	単位	①	②	③	④	⑤			
ブトキシエタノール	屋外少量未満危険物保管箱		ガラス瓶	23000	mL	24000	mL	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ブラセオジム標準液	AS-2	G314	ポリ瓶	0.10	kg	0.10	kg	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ポリ容器	100	mL	200	mL	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
フルオレセイン	CB	G013	ガラス瓶	100	g	100	g	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
プロピオン酸	CB	G120	ガラス瓶	25	mL	50	mL	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
プロモチモールブルー(BTB)	CB	G013	ガラス瓶	25	g	50	g	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ヘキサデカン	AS-2	G012	ガラス瓶	0.525	L	0.525	L	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ヘキサン	屋外少量未満危険物保管箱		ガラス瓶	500	mL	500	mL	○	○	×	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
	CB	G120	ガラス瓶	1000	mL	1000	mL	○	○	×	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
ヘキサンナトリウム	屋外少量未満危険物保管箱		ガラス瓶	1500	mL	2000	mL	○	○	×	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
	CB	G013	ガラス瓶	500	g	750	g	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ヘプタン	屋外少量未満危険物保管箱		ガラス瓶	500	mL	500	mL	○	○	×	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
ベリリウム標準液	AS-2	G314	ポリ瓶	0.10	kg	0.10	kg	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ベンゼン	AS-2	G012	ガラス瓶	0.45	L	0.50	L	○	○	×	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
ベンタデカン	AS-2	G012	ガラス瓶	0.025	L	0.025	L	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ホウ酸	AS-2	G314	ガラス瓶	0.50	kg	0.50	kg	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ポリ容器	1000	g	1500	g	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ポリ容器	500	g	500	g	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ホウ酸ナトリウム十水和物	CB	G013	ポリ容器	500	g	500	g	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ホウ素標準液	CB	G120	ポリ容器	100	mL	200	mL	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
没食子酸プロピル	CB	G013	ポリ容器	25	g	25	g	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ポリエチレングリコール4000	CB	G013	ポリ容器	1000	g	1000	g	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ホルマリン	CB	G013	ガラス瓶	1500	mL	2500	mL	○	○	×	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
ホルミウム標準液	AS-2	G314	ポリ瓶	0.10	kg	0.10	kg	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ポリ容器	100	mL	200	mL	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
マグネシウム標準液	CB	G120	ポリ容器	100	mL	200	mL	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
マンガン標準液	AS-2	G314	ポリ瓶	0.10	kg	0.10	kg	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ポリ容器	100	mL	200	mL	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
メタノール	AS-2	G012	18リットル缶	11.20	L	11.20	L	○	○	×	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
メタンスルホン酸	AS-2	G314	ガラス瓶	0.50	kg	0.50	kg	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	AS-2	G314	ガラス瓶	0.50	kg	0.50	kg	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
メチルアルコール	CB	G117	缶	36	L	36	L	○	○	×	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
メチルエチルケトン	MP	A0117	ビン	0.50	L	1.00	L	○	○	×	—	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
メチルレッド	AS-2	G314	ポリ瓶	0.05	kg	0.05	kg	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ポリ容器	200	g	375	g	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	PCDF	A228	ガラス瓶	240	g	—	—	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	TVF	A120	ポリ容器	47	g	50	g	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
モリブデン	CB	G013	ガラス瓶	25	g	75	g	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
モリブデン酸アンモニウム	CB	G120	ポリ容器	500	g	1000	g	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
モリブデン酸ナトリウム	CB	G120	ポリ容器	500	g	1000	g	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
モリブデン標準液	CB	G120	ポリ容器	100	mL	200	mL	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
モリブデン酸アンモニウム	CB	G013	ポリ容器	500	g	1000	g	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ユウロピウム標準液	CB	G120	ポリ容器	100	mL	200	mL	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	AS-2	G314	ポリ瓶	0.10	kg	0.10	kg	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ユウ化カリウム	AS-2	G314	ガラス瓶	0.05	kg	0.05	kg	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ポリ容器	8000	g	12000	g	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ガラス瓶	1000	g	1500	g	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ユウ化銀	CB	G013	ポリ容器	50	g	100	g	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	AS-2	G314	ガラス瓶	0.02	kg	0.05	kg	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ユウ化ナトリウム	AS-2	G314	ガラス瓶	0.50	kg	0.50	kg	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ポリ容器	500	g	1500	g	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ユウ化ナトリウム	CB	G120	ポリ容器	500	g	1000	g	○	×	—	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否

※1 貯蔵施設ごとに保有可能な量又は消防法に基づき許可された危険物の取扱い量等による最大保有量を記載

※2 フローに基づき以下の①～⑤の順に該当するか確認し、該当しないものは固定源ではないと判断する。

①日用品等ではない。②ガス又は揮発性の液体である。③多量の放出が想定される。④屋外保管している。⑤有毒化学物質である

建家名略称 MP：分離精製工場 CB：分析所 TVF：ガラス固化技術開発施設 PCDF：プルトニウム転換技術開発施設

ASP：アスファルト固化処理施設 AS-1：アスファルト固化体貯蔵施設 AS-2：第二アスファルト固化体貯蔵施設

2 HASWS：第二高放射性固体廃棄物貯蔵施設 E 施設：第二低放射性廃液蒸発処理施設 Z 施設：第三低放射性廃液蒸発処理施設

C 施設：放出廃液油除去施設 ST：廃溶媒処理技術開発施設 AAF：廃棄物処理場 Kr：クリプトン回収技術開発施設

表-3 敷地内固定源整理表（試薬類）（14/15）

内容量は令和2年9月時点の値

化学物質名称	化学物質の保有状況				固定源の特定									
	保管場所		貯蔵容器等	内容量		最大保有量 ^{※1}		判断基準 ^{※2}					事由	固定源
	建家	部屋		値	単位	値	単位	①	②	③	④	⑤		
ヨウ化ナトリウム	CB	G013	ガラス瓶	25	g	25	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ヨウ素酸カリウム	CB	G013	—	0	g	1000	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ヨウ素酸ナトリウム	AS-2	G314	ガラス瓶	0.50	kg	0.50	kg	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ヨウ素溶液	CB	G120	ガラス瓶	500	mL	1000	mL	○	○	×	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
ヨードエタン	AS-2	G314	ガラス瓶	0.025	kg	0.025	kg	○	○	×	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
ランタン標準液	CB	G120	ポリ容器	100	mL	200	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
リチウム標準液	CB	G120	ポリ容器	100	mL	200	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硫酸	AS-2	G314	ガラス瓶	0.75	L	1.00	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	PCDF	A232	ガラス瓶	340	mL	—	—	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ガラス瓶	1000	mL	3000	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ガラス瓶	1000	mL	2500	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硫酸アンモニウム	AS-2	G314	ガラス瓶	0.50	kg	0.50	kg	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ポリ容器	13000	g	28500	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	PCDF	A228	ポリ容器	4010	g	—	—	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	TVF	A120	ポリ容器	3000	g	3000	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ポリ容器	500	g	2500	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ポリ容器	1000	g	1000	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硫酸アンモニウム鉄(II)六水和物	CB	G120	ポリ容器	500	g	1000	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ガラス瓶	3500	g	5500	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硫酸アンモニウム鉄(III)十二水和物	CB	G120	ガラス瓶	25	g	50	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硫酸カリウム	CB	G120	ガラス瓶	25	g	50	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硫酸カルシウム二水和物	CB	G013	ポリ容器	3000	g	4500	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硫酸水素アンモニウム	TVF	A120	ポリ容器	500	g	500	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ポリ容器	2000	g	4500	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ポリ容器	500	g	1500	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硫酸水素ナトリウム一水和物	CB	G120	ポリ容器	500	g	1000	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ポリ容器	1500	g	2500	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硫酸セリウム(IV)四水和物	CB	G120	ガラス瓶	25	g	75	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硫酸鉄(II)七水和物	CB	G120	ガラス瓶	50	g	75	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ポリ容器	1000	g	1500	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	—	0	g	3000	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	PCDF	A228	ポリ容器	2869	g	—	—	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	TVF	A120	ポリ容器	489	g	1500	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硫酸ナトリウム	AS-2	G314	ガラス瓶	1.00	kg	1.00	kg	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ポリ容器	8500	g	14500	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ポリ容器	1000	g	1500	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ポリ容器	1500	g	1500	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硫酸ニッケル	AS-2	G314	ドラム缶	640.00	kg	640.00	kg	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硫酸ヒドラジニウム	CB	G013	ポリ容器	500	g	1000	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ポリ容器	25	g	50	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硫酸四アンモニウムセリウム(IV)四水和物	CB	G013	ガラス瓶	100	g	200	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
リン酸	AS-2	G314	ガラス瓶	1.00	kg	1.00	kg	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ガラス瓶	3000	mL	7000	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G120	ガラス瓶	500	mL	1500	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ガラス瓶	500	mL	500	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
リン酸三ナトリウム	AS-2	G314	ガラス瓶	0.49	kg	0.50	kg	○	○	×	—	—	保有量が少なく多量に放出されない	否
リン酸ジブチル	AS-2	G012	ガラス瓶	1.60	L	1.60	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	屋外少量未満危険物保管箱	—	—	0	mL	250	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
リン酸水素二ナトリウム	AS-2	G314	ポリ瓶	2.441	kg	4.50	kg	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
	CB	G013	ポリ容器	500	g	500	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
リン酸水素ピス（2-エチルヘキシル）	CB	G120	ガラス瓶	1000	mL	2000	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否

※1 貯蔵施設ごとに保有可能な量又は消防法に基づき許可された危険物の取扱量等による最大保有量を記載

※2 フローに基づき以下の①～⑤の順に該当するか確認し、該当しないものは固定源ではないと判断する。

①日用品等ではない。②ガス又は揮発性の液体である。③多量の放出が想定される。④屋外保管している。⑤有毒化学物質である

建家名略称 MP：分離精製工場 CB：分析所 TVF：ガラス固化技術開発施設 PCDF：プルトニウム転換技術開発施設

ASP：アスファルト固化処理施設 AS-1：アスファルト固化体貯蔵施設 AS-2：第二アスファルト固化体貯蔵施設

2 HASWS：第二高放射性固体廃棄物貯蔵施設 E 施設：第二低放射性廃液蒸発処理施設 Z 施設：第三低放射性廃液蒸発処理施設

C 施設：放出廃液油除去施設 ST：廃溶媒処理技術開発施設 AAF：廃棄物処理場 Kr：クリプトン回収技術開発施設

表-3 敷地内固定源整理表（試薬類）（15/15）

内容量は令和2年9月時点の値

化学物質名称	化学物質の保有状況				固定源の特定									
	保管場所		貯蔵容器等	内容量		最大保有量 ^{※1}		判断基準 ^{※2}					事由	固定源
	建家	部屋		値	単位	値	単位	①	②	③	④	⑤		
リン酸二水素ナトリウム	CB	G120	ポリ容器	500	g	1000	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
リン酸トリ-n-ブチル（TBP）	CB	G120	ガラス瓶	2500	mL	2500	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
		屋外少量未清危険物保管箱	ガラス瓶	4000	mL	4000	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
リン酸二水素カリウム	CB	G013	ポリ容器	500	g	500	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
リン酸二水素ナトリウムニ水和物	CB	G013	ポリ容器	500	g	500	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
りん標準液	CB	G120	ガラス瓶	100	mL	200	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ルテチウム標準液	CB	G120	ポリ容器	100	mL	200	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ルテニウム	CB	G013	ガラス瓶	4	g	6	g	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ルテニウム標準液	CB	G120	ポリ容器	100	mL	200	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ルビジウム標準液	CB	G120	ポリ容器	100	mL	200	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
レニウム標準液	CB	G120	ポリ容器	100	mL	100	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ロジウム標準液	CB	G120	ポリ容器	100	mL	200	mL	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否

※1 貯蔵施設ごとに保有可能な量又は消防法に基づき許可された危険物の取扱量等による最大保有量を記載

※2 フローに基づき以下の①～⑤の順に該当するか確認し、該当しないものは固定源ではないと判断する。

①日用品等ではない。②ガス又は揮発性の液体である。③多量の放出が想定される。④屋外保管している。⑤有毒化学物質である

建家名略称 MP：分離精製工場 CB：分析所 TVF：ガラス固化技術開発施設 PCDF：プルトニウム転換技術開発施設

ASP：アスファルト固化処理施設 AS-1：アスファルト固化体貯蔵施設 AS-2：第二アスファルト固化体貯蔵施設

2 HASWS：第二高放射性固体廃棄物貯蔵施設 E 施設：第二低放射性廃液蒸発処理施設 Z 施設：第三低放射性廃液蒸発処理施設

C 施設：放出廃液油分除去施設 ST：廃溶媒処理技術開発施設 AAF：廃棄物処理場 Kr：クリプトン回収技術開発施設

表-4 敷地内固定源整理表 (ポンベ類) (1/1)

内容量は令和2年11月時点の値

化学物質名称	化学物質の保有状況				固定源の特定												
	保管場所		貯蔵施設	内容量			最大保有量 ^{※1}			判断基準 ^{※2}					除外理由	固定源	
	建家	部屋		値	単位	個数	値	単位	個数	①	②	③	④	⑤			
PRガス	CB	ポンベ庫	ガスポンベ	47.4	L	4	47.4	L	4	○	○	×	—	—	ポンベに貯蔵されており多量に放出されない	否	
	PCDF	A423	ガスポンベ	47.4	L	1	47.4	L	1	○	○	×	—	—	ポンベに貯蔵されており多量に放出されない	否	
	TVF	ポンベ庫	ガスポンベ	47.4	L	2	47.4	L	2	○	○	×	—	—	ポンベに貯蔵されており多量に放出されない	否	
PRガス(Ar90%, CH 10%)	CB	廊下(G103)	—	47.6	L	2	47.6	L	2	○	○	×	—	—	ポンベに貯蔵されており多量に放出されない	否	
	CB	化学準備室(G117)	—	47.6	L	1	47.6	L	1	○	○	×	—	—	ポンベに貯蔵されており多量に放出されない	否	
アルゴン	CB	ポンベ置場(CB屋外北側)	—	46.7	L	6	46.7	L	6	○	○	×	—	—	ポンベに貯蔵されており多量に放出されない	否	
	CB	ポンベ置場(CB屋外南側)	—	46.7	L	3	46.7	L	14	○	○	×	—	—	ポンベに貯蔵されており多量に放出されない	否	
	TVF	ポンベ庫	—	46.7	L	2	46.7	L	2	○	○	×	—	—	ポンベに貯蔵されており多量に放出されない	否	
	TVF	試験セル操作区域(G144)	—	46.7	L	1	46.7	L	1	○	○	×	—	—	ポンベに貯蔵されており多量に放出されない	否	
イナージエン(N ₂ 52%, Ar 0%, CO ₂ 8%)	CB	貯蔵室(A1209)	ガスポンベ	31.4	L	1	47.5	L	1	○	○	×	—	—	ポンベに貯蔵されており多量に放出されない	否	
	CB	高放射性分析室(G104)	—	68	L	1	68	L	1	○	○	×	—	—	ポンベに貯蔵されており多量に放出されない	否	
	CB	高放射性分析室(G105)	—	68	L	1	68	L	1	○	○	×	—	—	ポンベに貯蔵されており多量に放出されない	否	
	CB	中放射性分析室(G107)	—	68	L	1	68	L	1	○	○	×	—	—	ポンベに貯蔵されており多量に放出されない	否	
液化酸素	TVF開発棟	保守区域(A018)	ガスポンベ	132	m ³	1	264	m ³	2	○	○	×	—	—	ポンベに貯蔵されており多量に放出されない	否	
液化炭酸ガス	MP	G643	ガスポンベ	633	g	4	633	g	4	○	○	×	—	—	ポンベに貯蔵されており多量に放出されない	否	
液化窒素	CB	廊下(G103)	—	100	L	1	100	L	1	○	○	×	—	—	ポンベに貯蔵されており多量に放出されない	否	
	TVF	試験セル操作区域(G144)	—	118	L	1	118	L	1	○	○	×	—	—	ポンベに貯蔵されており多量に放出されない	否	
	CB	G312	圧力容器	20	L	3	20	L	3	○	○	×	—	—	屋内保管であり多量に放出されない	否	
	CB	G312	圧力容器	42	L	1	42	L	1	○	○	×	—	—	屋内保管であり多量に放出されない	否	
	MP	A563	圧力容器	100	L	1	100	L	1	○	○	×	—	—	屋内保管であり多量に放出されない	否	
	TVF	G141	圧力容器	20	L	4	20	L	4	○	○	×	—	—	屋内保管であり多量に放出されない	否	
	TVF	G141	圧力容器	100	L	1	100	L	1	○	○	×	—	—	屋内保管であり多量に放出されない	否	
	AS2	G012	ガスポンベ	0	L	1	50	L	1	○	○	×	—	—	ポンベに貯蔵されており多量に放出されない	否	
	AS2	屋外ポンベ庫	ガスポンベ	0	L	1	175	L	1	○	○	×	—	—	ポンベに貯蔵されており多量に放出されない	否	
	AS2	屋外ポンベ庫	ガスポンベ	0	L	1	175	L	1	○	○	×	—	—	ポンベに貯蔵されており多量に放出されない	否	
	PCDF	A128	液体窒素容器	0	ℓ	1	50	ℓ	1	○	○	×	—	—	屋内保管であり多量に放出されない	否	
	水素	PCDF付属ガス供給建家	付属ガス供給建家	ガスポンベ	47	ℓ	12	47	ℓ	12	○	○	×	—	—	ポンベに貯蔵されており多量に放出されない	否
ST		A009	ガスポンベ	30	kg	2	30	kg	2	○	○	×	—	—	ポンベに貯蔵されており多量に放出されない	否	
PCDF付属ガス供給建家		付属ガス供給建家	ガスポンベ	47	ℓ	1	47	ℓ	1	○	○	×	—	—	ポンベに貯蔵されており多量に放出されない	否	
窒素	PCDF	A323	ガスポンベ	47	ℓ	9	47	ℓ	9	○	○	×	—	—	ポンベに貯蔵されており多量に放出されない	否	
	MP	G643	ガスポンベ	47	L	2	47	L	2	○	○	×	—	—	ポンベに貯蔵されており多量に放出されない	否	
	MP	G543	ガスポンベ	47	L	5	47	L	5	○	○	×	—	—	ポンベに貯蔵されており多量に放出されない	否	
	プルトニウム転換技術開発	機器分析室(A227)	—	47	L	1	47	L	1	○	○	×	—	—	ポンベに貯蔵されており多量に放出されない	否	
	TVF	保守区域(A018)	ガスポンベ	7	m ³	1	14	m ³	2	○	○	×	—	—	ポンベに貯蔵されており多量に放出されない	否	
	ST	ポンベ庫	ガスポンベ	45	kg	24	45	kg	24	○	○	×	—	—	ポンベに貯蔵されており多量に放出されない	否	
二酸化炭素	ST	ポンベ庫	ガスポンベ	15	kg	16	15	kg	16	○	○	×	—	—	ポンベに貯蔵されており多量に放出されない	否	
	ST	ポンベ庫	ガスポンベ	3.3	kg	26	3.3	kg	26	○	○	×	—	—	ポンベに貯蔵されており多量に放出されない	否	
	LW	ポンベ庫	ガスポンベ	11	kg	6	11	kg	6	○	○	×	—	—	ポンベに貯蔵されており多量に放出されない	否	
	WS	ポンベ庫	ガスポンベ	10	kg	9	10	kg	9	○	○	×	—	—	ポンベに貯蔵されており多量に放出されない	否	
	AAF	G180	ガスポンベ	11	kg	6	11	kg	6	○	○	×	—	—	ポンベに貯蔵されており多量に放出されない	否	
	C	W100	ガスポンベ	11	kg	2	11	kg	2	○	○	×	—	—	ポンベに貯蔵されており多量に放出されない	否	
	C	W100	ガスポンベ	11	kg	2	11	kg	2	○	○	×	—	—	ポンベに貯蔵されており多量に放出されない	否	
	C	W100	ガスポンベ	10	kg	4	10	kg	4	○	○	×	—	—	ポンベに貯蔵されており多量に放出されない	否	
	ST	ポンベ庫	ガスポンベ	3.3	kg	6	3.3	kg	6	○	○	×	—	—	ポンベに貯蔵されており多量に放出されない	否	
		脱酸ガスポンベ貯蔵庫	脱酸ガスポンベ貯蔵庫	ガスポンベ	45	kg	24	45	kg	24	○	○	×	—	—	ポンベに貯蔵されており多量に放出されない	否
	CB	高放射性分析室(G104)	—	1	L	1	1	L	1	○	○	×	—	—	ポンベに貯蔵されており多量に放出されない	否	
	CB	高放射性分析室(G105)	—	1	L	1	1	L	1	○	○	×	—	—	ポンベに貯蔵されており多量に放出されない	否	
	CB	中放射性分析室(G107)	—	1	L	1	1	L	1	○	○	×	—	—	ポンベに貯蔵されており多量に放出されない	否	
	標準ガス(N ₂)	PCDF付属ガス供給建家	付属ガス供給建家	ガスポンベ	10	ℓ	1	10	ℓ	1	○	○	×	—	—	ポンベに貯蔵されており多量に放出されない	否
標準ガス(N ₂ +H)	PCDF付属ガス供給建家	付属ガス供給建家	ガスポンベ	10	ℓ	1	10	ℓ	1	○	○	×	—	—	ポンベに貯蔵されており多量に放出されない	否	
プロパン	技術管理棟	屋外(地上)	ガスポンベ	30	kg	5	30	kg	5	○	○	×	—	—	ポンベに貯蔵されており多量に放出されない	否	
ヘリウムガス	TVF管理棟	ポンベ庫	ガスポンベ	0	m ³	0	7	m ³	6	○	○	×	—	—	ポンベに貯蔵されており多量に放出されない	否	
水処理剤(水酸化ナトリウム)	LWTF	冷凍機室	ポリタンク	12	kg	20	12	kg	80	○	×	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否		
水処理剤(硫酸、リン酸)	再UC	ポンプ室	ポリ袋	10	kg	200	10	kg	300	○	×	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否		

※1 貯蔵施設ごとに保有可能な量又は消防法に基づき許可された危険物の取扱量等による最大保有量を記載

※2 フローに基づき以下の①～⑤の順に該当するか確認し、該当しないものは固定源ではないと判断する。

①日用品等ではない。②ガス又は揮発性の液体である。③多量の放出が想定される。④屋外保管している。⑤有毒化学物質である

建家名略称 MP：分離精製工場 CB：分析所 TVF：ガラス固化技術開発施設 PCDF：プルトニウム転換技術開発施設

ASP：アスファルト固化処理施設 AS-1：アスファルト固化体貯蔵施設 AS-2：第二アスファルト固化体貯蔵施設

2 HASWS：第二高放射性固体廃棄物貯蔵施設 E 施設：第二低放射性廃液蒸発処理施設 Z 施設：第三低放射性廃液蒸発処理施設

C 施設：放出廃液油除去施設 ST：廃溶媒処理技術開発施設 AAF：廃棄物処理場 Kr：クリプトン回収技術開発施設

表-5 敷地内固定源整理表（日用品等の考慮不要とするもの）

化学物質の保有状況						固定源の特定								
化学物質名称	保管場所	貯蔵容器等	内容量		最大保有量 ^{※1}		判断基準 ^{※2}					除外理由	固定源	
			値	単位	値	単位	①	②	③	④	⑤			
潤滑油/潤滑剤	各建家	機器	—	—	—	—	×	—	—	—	—	—	—	—
絶縁油	各変圧器	機器	—	—	—	—	×	—	—	—	—	—	—	—
バッテリー	各機器	容器	—	—	—	—	×	—	—	—	—	—	—	—
セメント	各建家	袋等	—	—	—	—	×	—	—	—	—	—	—	—
乾燥剤	各建家	袋、瓶等	—	—	—	—	×	—	—	—	—	—	—	—
接着剤	各建家	缶等	—	—	—	—	×	—	—	—	—	—	—	—
スプレー缶	各建家	スプレー缶	—	—	—	—	×	—	—	—	—	—	—	—
塗料/うすめ液	各建家	缶等	—	—	—	—	×	—	—	—	—	—	—	—
消火器	各配備場所	ポンプ等	—	—	—	—	×	—	—	—	—	—	—	—
酸素呼吸器	各配備場所	ポンプ等	—	—	—	—	×	—	—	—	—	—	—	—
エアコンの冷媒	各配備場所	機器	—	—	—	—	×	—	—	—	—	—	—	—

※1 貯蔵施設ごとに保有可能な量又は消防法に基づき許可された危険物の取扱い量等による最大保有量を記載

※2 フローに基づき以下の①～⑤の順に該当するか確認し、該当しないものは固定源ではないと判断する。

①日用品等ではない。②ガス又は揮発性の液体である。③多量の放出が想定される。④屋外保管している。⑤有毒化学物質である

表-6 敷地内可動源整理表

化学物質名称	化学物質の保有状況					可動源の特定							
	輸送先		荷姿	輸送量		頻度	判断基準 ^{※2}					除外理由	固定源
	建家	部屋		値	単位		①	②	③	④	⑤		
硝酸	TVF	屋外薬品貯槽	タンクローリ	約0.7	m ³	1回/年	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
水酸化ナトリウム	TVF	屋外薬品貯槽	タンクローリ	約0.7	m ³	1回/年	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
液体窒素	MP	A563	タンクローリ	計約300	L	1回/週	○	○	○	○	×	有毒化学物質ではない	否
	TVF	G141					○	○	○	○	×	有毒化学物質ではない	否
	TVF	G141					○	○	○	○	×	有毒化学物質ではない	否
	PCDF	屋外(地上)	タンクローリ	約2500	kg	1回/20日	○	○	○	○	×	有毒化学物質ではない	否
	Kr	屋外(地上)	タンクローリ	約13	m ³	1回/月	○	○	○	○	×	有毒化学物質ではない	否
PRガス	CB	ボンベ庫	タンクローリ	計約300	L	1回/四半期	○	○	○	○	×	有毒化学物質ではない	否
	TVF	ボンベ庫					○	○	○	○	×	有毒化学物質ではない	否
硝酸	薬品貯蔵所	屋外(地上)	タンクローリ	約15	m ³	1回/年	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
水酸化ナトリウム	薬品貯蔵所	屋外(地上)	タンクローリ	約7.5	m ³	1回/四半期	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
硫酸	薬品貯蔵所	屋外(地上)	タンクローリ	約8	m ³	1回/年	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ケロシン	IF	屋外タンク貯蔵所	タンクローリ	約3000	L	1回/3日(運転期間中)	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否

※1 貯蔵施設ごとに保有可能な量又は消防法に基づき許可された危険物の取扱い量等による最大保有量を記載

※2 フローに基づき以下の①～⑤の順に該当するか確認し、該当しないものは固定源ではないと判断する。

①日用品等ではない。②ガス又は揮発性の液体である。③多量の放出が想定される。④屋外保管している。⑤有毒化学物質である

建家名略称 MP：分離精製工場 CB：分析所 TVF：ガラス固化技術開発施設 PCDF：プルトニウム転換技術開発施設

Kr：クリプトン回収技術開発施設

表-8 再処理施設敷地外（核燃料サイクル工学研究所内）の固定源整理表

内容量は令和2年11月時点の値

化学物質の保有状況					固定源の特定						
化学物質名称	保管場所	貯蔵容器等	最大保有量 ^{※1}		判断基準 ^{※2}					除外理由	固定源
			値	単位	①	②	③	④	⑤		
灯油	ウラン系廃棄物焼却場	灯油タンク	1050.0	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油	中央運転管理室	重油タンク	196.0	m3	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油	中央運転管理室	重油タンク	196.0	m3	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油	中央運転管理室	重油タンク	196.0	m3	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
軽油	南東地区	屋外軽油タンク	195.0	m3	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
軽油	南東地区	屋外軽油タンク	195.0	m3	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
液体窒素	地層処分基盤研究施設	屋外タンク	3267.0	m3	○	○	○	○	×	有毒化学物質ではない	否
液体窒素	地層処分放射化学研究施設	屋外タンク	9873.0	m3	○	○	○	○	×	有毒化学物質ではない	否
苛性ソーダ	プルトニウム廃棄物処理開発施設	屋外タンク	5200.0	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
灯油		サービスタンク	162.0	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
液体窒素	プルトニウム廃棄物処理開発施設	屋外タンク	14939.0	m3	○	○	○	○	×	有毒化学物質ではない	否
液体アルゴン		屋外タンク	7955.0	m3	○	○	○	○	×	有毒化学物質ではない	否
アルゴン-水素混合ガス	ユーティリティ棟	屋外タンク	10.2	m3	○	○	○	○	×	有毒化学物質ではない	否
アルゴン-水素混合ガス		屋外タンク	20.5	m3	○	○	○	○	×	有毒化学物質ではない	否
窒素-水素混合ガス	プルトニウム燃料付属機械室	屋外タンク	10.0	m3	○	○	○	○	×	有毒化学物質ではない	否
六フッ化ウラン ^{※3}	第二ウラン貯蔵庫	シリンダー	1886.0	kg	○	○	○	○	×	屋内保管であり多量に放出されない	否

※1 貯蔵施設ごとに保有可能な量又は消防法に基づき許可された危険物の取扱い量等による最大保有量を記載

※2 フローに基づき以下の①～⑤の順に該当するか確認し、該当しないものは固定源ではないと判断する。

①日用品等ではない。②ガス又は揮発性の液体である。③多量の放出が想定される。④屋外保管している。⑤有毒化学物質である

※3 敷地外固定源の調査に当たって、ガスボンベ及び屋内貯蔵されている化学物質は有毒ガスが多量に放出されるおそれがないことから対象外としているが、核燃料サイクル工学研究所特有の化学物質であることから記載した。

保安上の観点から、事業所名は公開できません。

表-9 再処理施設敷地外の固定源整理表（消防法）（1/2）

化学物質の保有状況				固定源の特定							
化学物質名称	事業所名	保管場所	内容量		判断基準※2					除外理由	固定源
			値	単位	①	②	③	④	⑤		
A重油		屋外タンク	20000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	15000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	16000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	16000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	120000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	4000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	30000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	4300	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
灯油		屋外タンク	3422000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
軽油		屋外タンク	1380000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	1380000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	1380000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	680000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	200000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	200000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ガソリン		屋外タンク	910000	L	○	○	○	○	○	—	該当
ガソリン		屋外タンク	2625000	L	○	○	○	○	○	—	該当
軽油		屋外タンク	987000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	222000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	780000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	955000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	1800000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
軽油		屋外タンク	1800000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	640000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	2000000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	1650000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	990000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	990000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	10000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	23100	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	115139	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	27000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	168000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	10000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	34000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	11000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	6800	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
灯油		屋外タンク	10000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
灯油		屋外タンク	10000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	5000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
灯油		屋外タンク	50000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	16000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	405000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	620000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
灯油		屋外タンク	16000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	41120	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	23200	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
過酸化水素		屋外タンク	35960	kg	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
過酸化水素		屋外タンク	35960	kg	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	4780	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	22500	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	200000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	200000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	200000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	200000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	30000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
軽油		屋外タンク	47500	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否

※2 フローに基づき以下の①～⑤の順に該当するか確認し、該当しないものは固定源ではないと判断する。

①日用品等ではない。②ガス又は揮発性の液体である。③多量の放出が想定される。④屋外保管している。⑤有毒化学物質である

保安上の観点から、事業所名は公開できません。

表-9 再処理施設敷地外の固定源整理表（消防法）(2/2)

化学物質の保有状況				固定源の特定							
化学物質名称	事業所名	保管場所	内容量		判断基準※2					除外理由	固定源
			値	単位	①	②	③	④	⑤		
軽油		屋外タンク	10000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	1571000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	1571000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	1571000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ナフサ		屋外タンク	10000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	10000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	15000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
メタノール		屋外タンク	12500	L	○	○	○	○	○	—	該当
重油		屋外タンク	10000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	212344	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
灯油		屋外タンク	20000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
廃油		屋外タンク	30000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	30000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
廃油		屋外タンク	1950	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
廃油		屋外タンク	1950	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	20000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
灯油		屋外タンク	100000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ギヤー油		屋外タンク	9600	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	25000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
軽油		屋外タンク	50000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
軽油		屋外タンク	2000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
灯油		屋外タンク	30000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
灯油		屋外タンク	3000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
バーム油		屋外タンク	490000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
バーム油		屋外タンク	490000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	15000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	8000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	30000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
ケロシン		屋外タンク	4600	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
灯油		屋外タンク	1050	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	19600	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	19600	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	19600	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
オクチル酸カルシウム		屋外タンク	1200	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
灯油		屋外タンク	7500	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
軽油		屋外タンク	195000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
軽油		屋外タンク	195000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
軽油		屋外タンク	670000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	500000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
灯油		屋外タンク	10000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	24000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
灯油		屋外タンク	6000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	50000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
灯油		屋外タンク	9500	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	100000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	5000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	6500	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
灯油		屋外タンク	15000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
灯油		屋外タンク	35000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
灯油		屋外タンク	2250	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
軽油		屋外タンク	3661300	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
軽油		屋外タンク	3661300	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
軽油		屋外タンク	150000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
軽油		屋外タンク	6000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
軽油		屋外タンク	150000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
重油		屋外タンク	20000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
軽油		屋外タンク	175000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
潤滑油		屋外タンク	63000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否
軽油		屋外タンク	4000	L	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否

※2 フローに基づき以下の①～⑤の順に該当するか確認し、該当しないものは固定源ではないと判断する。

①日用品等ではない。②ガス又は揮発性の液体である。③多量の放出が想定される。④屋外保管している。⑤有毒化学物質である

保安上の観点から、事業所名は公開できません。

表-10 再処理施設敷地外の固定源整理表（高圧ガス保安法）（1/4）

化学物質の保有状況				固定源の特定							
化学物質名称	事業所名	保管場所	内容量		判断基準 ^{※2}					除外理由	固定源
			値	単位	①	②	③	④	⑤		
アンモニア		屋外タンク	1	m ³	○	○	○	○	○	—	該当
アンモニア		屋外タンク	500	kg	○	○	○	○	○	—	該当
アンモニア		屋外タンク	500	kg	○	○	○	○	○	—	該当
窒素		円筒型断熱タンク（CE）	73100	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（CE）	73100	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（CE）	73100	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（CE）	109080	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（CE）	109080	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（CE）	109080	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（CE）	109080	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
酸素		円筒型断熱タンク（CE）	15390	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク	21.87	t	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（CE）	98515	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（CE）	98515	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（CE）	98515	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（CE）	98515	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（CE）	98515	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（CE）	98515	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
アルゴン		円筒型断熱タンク（CE）	126	t	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
酸素		円筒型断熱タンク（CE）	102690	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
液化石油ガス（プロパン）		円筒型タンク（ヨコ型）	36.92	t	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
液化石油ガス（プロパン）		円筒型タンク（ヨコ型）	36.92	t	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（CE）	73100	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（CE）	73100	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
空気		円筒型タンク（タテ型）	2.22	Nm ³	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
空気		円筒型タンク（タテ型）	31.71	Nm ³	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型タンク（タテ型）	3.72	Nm ³	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
空気		円筒型タンク（タテ型）	35.49	Nm ³	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
空気		円筒型タンク（タテ型）	35.49	Nm ³	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
空気		円筒型タンク（タテ型）	35.49	Nm ³	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
空気		円筒型タンク（タテ型）	35.49	Nm ³	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
空気		円筒型タンク（タテ型）	31.71	Nm ³	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
空気		円筒型タンク（タテ型）	31.71	Nm ³	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
空気		円筒型タンク（タテ型）	2.22	Nm ³	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
液化石油ガス（プロパン）		円筒型タンク（ヨコ型）	15304	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
液化石油ガス（ブタン）		円筒型タンク（ヨコ型）	10000	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
液化石油ガス（プロパン）		円筒型タンク（ヨコ型）	10000	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
エタン		円筒型タンク（ヨコ型）	3.70	t	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
天然ガス		円筒型タンク（タテ型）	24.84	t	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型タンク（タテ型）	3568	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型タンク（タテ型）	14562	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
天然ガス		円筒型断熱タンク	24840	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
アルゴン		円筒型断熱タンク（CE）	12205	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
二酸化炭素		円筒型断熱タンク（CE）	9233	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
酸素		円筒型断熱タンク（CE）	5114	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
アルゴン		円筒型断熱タンク（CE）	6183	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（CE）	40482	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
天然ガス		円筒型断熱タンク	12420	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（CE）	40482	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
天然ガス		円筒型断熱タンク	24840	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
酸素		円筒型断熱タンク（CE）	12589	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（CE）	8945	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
アルゴン		円筒型断熱タンク（CE）	15482	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
二酸化炭素		円筒型断熱タンク（CE）	8367	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
液化石油ガス（プロパン）		円筒型タンク（ヨコ型）	30.00	t	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
液化石油ガス（プロパン）		円筒型タンク（ヨコ型）	2.50	t	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
液化石油ガス（プロパン）		円筒型タンク（ヨコ型）	2.57	t	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
液化石油ガス（プロパン）		円筒型タンク（ヨコ型）	2.57	t	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
液化石油ガス（ブタン）		円筒型タンク（ヨコ型）	22.66	t	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否

※2 フローに基づき以下の①～⑤の順に該当するか確認し、該当しないものは固定源ではないと判断する。

①日用品等ではない。②ガス又は揮発性の液体である。③多量の放出が想定される。④屋外保管している。⑤有毒化学物質である

保安上の観点から、事業所名は公開できません。

表-10 再処理施設敷地外の固定源整理表（高圧ガス保安法）（2/4）

化学物質の保有状況			固定源の特定								
化学物質名称	事業所名	保管場所	内容量		判断基準 ^{※2}					除外理由	固定源
			値	単位	①	②	③	④	⑤		
液化石油ガス（プロパン）		円筒型タンク（ヨコ型）	10122	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
液化石油ガス（ブタン）		円筒型タンク（ヨコ型）	11214	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
アルゴン		円筒型断熱タンク（C E）	12198	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
酸素		円筒型断熱タンク（C E）	2875	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
二酸化炭素		円筒型断熱タンク（C E）	4542	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
アルゴン		円筒型断熱タンク（C E）	6174	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（C E）	3568	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（C E）	3568	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（C E）	7135	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（C E）	7063	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
アルゴン		円筒型断熱タンク（C E）	6165	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型タンク（タテ型）	40482	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（C E）	18180	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
液化石油ガス（プロパン）		円筒型タンク（ヨコ型）	11172	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
天然ガス		円筒型断熱タンク（C E）	14.5	t	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
L P G		円筒型タンク（ヨコ型）	12309	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
空気		円筒型タンク（タテ型）	775.0	Nm ³	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
空気		円筒型タンク（タテ型）	775.0	Nm ³	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
空気		円筒型タンク（タテ型）	775.0	Nm ³	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
空気		円筒型タンク（タテ型）	775.0	Nm ³	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
空気		円筒型タンク（タテ型）	775.0	Nm ³	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
空気		円筒型タンク（タテ型）	775.0	Nm ³	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
空気		円筒型タンク（タテ型）	97.2	Nm ³	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
空気		円筒型タンク（タテ型）	775.0	Nm ³	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
空気		円筒型タンク（タテ型）	97.2	Nm ³	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
空気		円筒型タンク（タテ型）	775.0	Nm ³	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
空気		円筒型タンク（タテ型）	775.0	Nm ³	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（C E）	3568	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（C E）	4514	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（C E）	3568	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（C E）	3568	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（C E）	3568	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
アルゴン		円筒型断熱タンク（C E）	6.27	t	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
酸素		円筒型断熱タンク（C E）	5027	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
酸素		円筒型断熱タンク（C E）	9961	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
酸素		円筒型断熱タンク（C E）	5027	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
酸素		円筒型断熱タンク（C E）	3078	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
酸素		円筒型断熱タンク（C E）	3078	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（C E）	7.14	t	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
アルゴン		円筒型断熱タンク（C E）	6183	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（C E）	7085	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（C E）	1820	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（C E）	1820	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（C E）	1752	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（C E）	3568	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（C E）	3598	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（C E）	3626.0	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（C E）	3626.0	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否

※2 フローに基づき以下の①～⑤の順に該当するか確認し、該当しないものは固定源ではないと判断する。

①日用品等ではない。②ガス又は揮発性の液体である。③多量の放出が想定される。④屋外保管している。⑤有毒化学物質である

保安上の観点から、事業所名は公開できません。

表-10 再処理施設敷地外の固定源整理表（高圧ガス保安法）（3/4）

化学物質名称	化学物質の保有状況		内容量					固定源の特定			
	事業所名	保管場所	値		判断基準 ^{※2}					除外理由	固定源
			①	②	③	④	⑤				
二酸化炭素		円筒型断熱タンク（C E）	13905.0	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（C E）	3621.5	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
酸素		円筒型断熱タンク（C E）	5110.0	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
アンモニア		円筒型タンク（ヨコ型）	11.2	t	○	○	○	○	○	—	該当
窒素		円筒型断熱タンク（C E）	7261.0	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（C E）	7261.0	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
液化石油ガス（プロパン）		円筒型タンク（ヨコ型）	30	t	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
液化石油ガス（プロパン）		円筒型タンク（ヨコ型）	34	t	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（C E）	14562	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
ヘリウム		円筒型タンク（タテ型）	0	Nm ³	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
六フッ化硫黄		円筒型タンク（ヨコ型）	34	t	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
六フッ化硫黄		円筒型タンク（ヨコ型）	34	t	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
六フッ化硫黄		円筒型タンク（ヨコ型）	34	t	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（C E）	3572	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（C E）	3568	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（C E）	3568	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（C E）	4	t	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（C E）	4	t	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（C E）	7	t	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（C E）	14563	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
天然ガス		円筒型断熱タンク	31859	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
天然ガス		円筒型断熱タンク	31859	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
空気を主成分とした放射性ガス		円筒型タンク（タテ型）	588	Nm ³	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
空気を主成分とした放射性ガス		円筒型タンク（タテ型）	1043	Nm ³	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型タンク（タテ型）	54	Nm ³	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（C E）	21870	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
酸素		円筒型タンク（タテ型）	2010	Nm ³	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
酸素		円筒型タンク（タテ型）	2010	Nm ³	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（C E）	4.48	t	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（C E）	16.56	t	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
アルゴン		円筒型断熱タンク（C E）	12.57	t	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（C E）	3631	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（C E）	12.16	t	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
アルゴン		円筒型断熱タンク（C E）	12.24	t	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（C E）	2117	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（C E）	2117	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
アルゴン		円筒型断熱タンク（C E）	3490	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（C E）	3621	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
アルゴン		円筒型断熱タンク（C E）	12550	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
アルゴン		円筒型断熱タンク（C E）	3490	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（C E）	3621	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（C E）	3631	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
アルゴン		円筒型断熱タンク（C E）	12550	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
酸素		円筒型断熱タンク（C E）	1693	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
アルゴン		円筒型断熱タンク（C E）	6265	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（C E）	3625	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
酸素		円筒型断熱タンク（C E）	2875	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（C E）	3626	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
液化石油ガス（プロパン）		円筒型タンク（ヨコ型）	24619	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
液化石油ガス（プロパン）		円筒型タンク（ヨコ型）	19094	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
液化石油ガス（プロパン）		円筒型タンク（ヨコ型）	3	t	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否

※2 フローに基づき以下の①～⑤の順に該当するか確認し、該当しないものは固定源ではないと判断する。

①日用品等ではない。②ガス又は揮発性の液体である。③多量の放出が想定される。④屋外保管している。⑤有毒化学物質である

保安上の観点から、事業所名は公開できません。

表-10 再処理施設敷地外の固定源整理表（高圧ガス保安法）（4/4）

化学物質名称	化学物質の保有状況		内容量					固定源の特定			
	事業所名	保管場所	値		判断基準 ^{※2}					除外理由	固定源
			①	②	③	④	⑤				
液化石油ガス（プロパン）		円筒型タンク（ヨコ型）	3	t	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
ヘリウム		円筒型タンク（ヨコ型）	4025	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
ヘリウム		円筒型タンク（ヨコ型）	4025	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（CE）	6854	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
液化石油ガス（プロパン）		円筒型タンク（ヨコ型）	19923	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
液化石油ガス（プロパン）		円筒型タンク（ヨコ型）	19923	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
ヘリウム		円筒型断熱タンク	54	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
ヘリウム		円筒型タンク（ヨコ型）	3400	Nm ³	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
ヘリウム		球形タンク	11912	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（CE）	35706	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（CE）	72720	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
ヘリウム		円筒型断熱タンク	2592	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（CE）	72720	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（CE）	72720	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（CE）	47326	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（CE）	1093	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（CE）	1093	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
酸素		円筒型断熱タンク（CE）	10055	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
酸素		円筒型断熱タンク（CE）	5	t	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
酸素		円筒型断熱タンク（CE）	2462	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
アルゴン		円筒型断熱タンク（CE）	6265	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型タンク（タテ型）	3626	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
二酸化炭素		円筒型断熱タンク（CE）	4542	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（CE）	14562	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		—	14562	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
六フッ化硫黄		—	1386	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
六フッ化硫黄		—	1386	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		—	7063	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
液化石油ガス（プロパン）		—	20190	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
液化石油ガス（プロパン）		—	20190	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
液化石油ガス（ブタン）		—	17639	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
酸素		—	7182	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
液化石油ガス（プロパン）		—	10	t	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
液化石油ガス（プロパン）		—	10	t	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
酸素		—	5028	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
アルゴン		—	5470	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
アルゴン		—	6183	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		—	15	t	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
酸素		—	10	t	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
液化石油ガス（プロパン）		—	2570	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
液化石油ガス（プロパン）		—	3	t	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（CE）	4	t	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（CE）	4	t	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（CE）	8945	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（CE）	3572	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（CE）	4	t	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（CE）	4	t	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
アルゴン		円筒型断熱タンク	6	t	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
酸素		円筒型断熱タンク（CE）	2567	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
酸素		円筒型断熱タンク（CE）	2567	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
アルゴン		円筒型断熱タンク（CE）	3533	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型断熱タンク（CE）	3625	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
酸素		円筒型断熱タンク（CE）	2875	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否
窒素		円筒型タンク（タテ型）	1820	kg	○	○	×	—	—	ボンベ等に保管されている	否

※2 フローに基づき以下の①～⑤の順に該当するか確認し、該当しないものは固定源ではないと判断する。

①日用品等ではない。②ガス又は揮発性の液体である。③多量の放出が想定される。④屋外保管している。⑤有毒化学物質である

表-11 再処理施設において将来使用する可能性のある化学物質

化学物質名称	化学物質の保有予定			固定源の特定					備考				
	保管場所		貯蔵施設	最大保有量 ^{※1}		判断基準 ^{※2}							
	建家	部屋		値	単位	①	②	③		④	⑤		
水加ヒドラジン (60%)	LWTF	G115	ヒドラジン供給槽	5.0	m3	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否	LWTFの運転が開始した場合、廃棄物処理工程において使用する。
消泡剤(※ リーテ、アワ系界面活性剤等の混合物)	LWTF	A031	消泡剤貯槽	0.1	m3	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否	
消泡剤(※ リーテ、アワ系界面活性剤等の混合物)	LWTF	A221	消泡剤貯槽	0.1	m3	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否	
分散剤(7メチル-無水フレイ酸共重合体ノド 塩)	LWTF	G212	分散剤貯槽	0.1	m3	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否	
消石灰(Ca(OH) ₂)	LWTF	A322	消石灰ホッパ	0.6	m3	○	×	—	—	—	ガス又は揮発性の液体ではない	否	
液化炭酸ガス(CO ₂)	LWTF	屋外	炭酸ガス供給ユニット	9960.0	L	○	○	×	—	—	ボンベに貯蔵されており多量に放出されない	否	
液化炭酸ガス(CO ₂)	LWTF	A326	ガスボンベ	40.0	L	○	○	×	—	—	ボンベに貯蔵されており多量に放出されない	否	
ホルマリン	MP	屋内	貯槽	1	m3	○	○	○	×	—	屋内保管であり多量に放出されない	否	分離精製工場の系統除染において、今後使用する可能性がある。 保管場所、量等は定まっていない。再処理施設内のいずれかの建屋内に保管することを想定。
硝酸	—	—	—	—	—	○	○	○	×	—	屋内保管であれば多量に放出されない	否	
水酸化ナトリウム	—	—	—	—	—	○	○	○	×	—	屋内保管であれば多量に放出されない	否	
炭酸水素ナトリウム	—	—	—	—	—	○	○	○	×	—	屋内保管であれば多量に放出されない	否	
過マンガン酸カリウム	—	—	—	—	—	○	○	○	×	—	屋内保管であれば多量に放出されない	否	
エチレンジアミン四酢酸二ナトリウム	—	—	—	—	—	○	○	○	×	—	屋内保管であれば多量に放出されない	否	
濃硫酸	—	—	—	—	—	○	○	○	×	—	屋内保管であれば多量に放出されない	否	
シュウ酸	—	—	—	—	—	○	○	○	×	—	屋内保管であれば多量に放出されない	否	
硝酸セリウム	—	—	—	—	—	○	○	○	×	—	屋内保管であれば多量に放出されない	否	
ホウ酸	—	—	—	—	—	○	○	○	×	—	屋内保管であれば多量に放出されない	否	
四ホウ酸ナトリウム	—	—	—	—	—	○	○	○	×	—	屋内保管であれば多量に放出されない	否	
硝酸ガドリニウム	—	—	—	—	—	○	○	○	×	—	屋内保管であれば多量に放出されない	否	
過酸化水素水	—	—	—	—	—	○	○	○	×	—	屋内保管であれば多量に放出されない	否	

※1 貯蔵施設ごとに保有可能な量又は消防法に基づき許可された危険物の取扱量等による最大保有量を記載

※2 フローに基づき以下の①～⑤の順に該当するか確認し、該当しないものは固定源ではないと判断する。

①日用品等ではない。②ガス又は揮発性の液体である。③多量の放出が想定される。④屋外保管している。⑤有毒化学物質である
建家名略称 MP：分離精製工場 LWTF：低放射性廃棄物処理技術開発施設